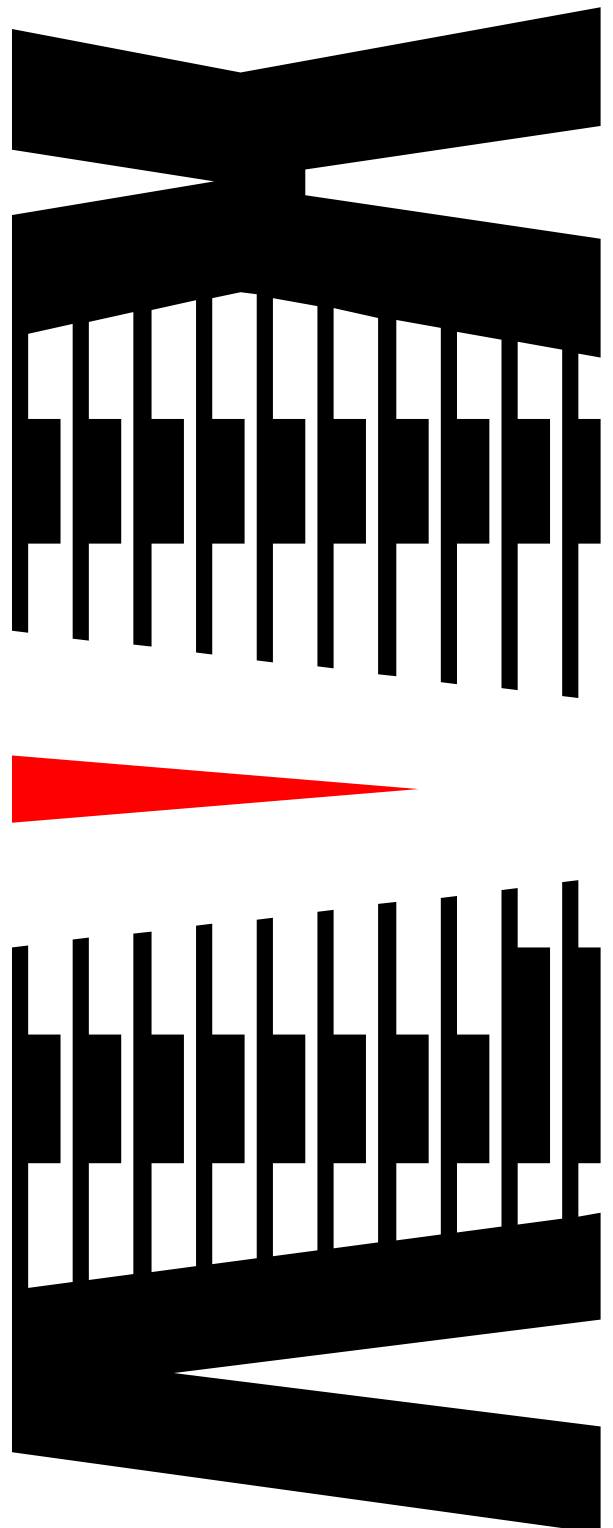


VAD-F2000

V/A エラー監視システム

操作説明書

Ver.1.7



目 次

ページ

1. 概要	3
1.1 システム構成図	3
2. 監視システム	4
2.1 メイン画面	4
2.1.1 スタートボタン	5
2.1.2 メニューバー	5
2.1.3 エラー検知開始・停止ボタン	5
2.1.4 エラー確認ボタン	6
2.1.5 しきい値・マスク値設定選択ボタン	8
2.1.6 ログ表示	9
2.1.7 サムネイル表示	10
2.1.8 AVI 自動作成イベント状態表示	10
2.2 設定	11
2.2.1 起動時設定	11
2.2.2 時刻同期設定	12
2.2.3 ログ設定	14
2.2.4 キャプチャ設定	16
2.2.5 設定ファイル読込・保存	18
2.2.6 テキスト読み上げ	20
2.2.7 VAD アラーム通知設定	22
2.2.8 VAD しきい値・マスク値設定	25
2.2.9 VAD 接続設定	58
2.2.10 プレーヤー接続設定	61
2.2.11 端末接続設定	62
2.3 ログ操作・状況表示	64
2.3.1 ログ検索	64
2.3.2 フラッシュエラーログ検索	67
2.3.3 ログ削除	71
2.3.4 AVI 自動作成状況	72
2.4 ハード情報参照	73
2.4.1 バージョン情報	73
2.4.2 マスク値参照	74
2.4.3 しきい値参照	75
2.4.4 状態参照	76
2.4.5 エラー値参照	77
2.4.6 測定値参照	78
2.4.7 VAD 時刻参照・設定	79
2.4.8 局間情報	80

2.5 SR-2000.....	81
2.6 ソフトウェアバージョン情報.....	84
3. プレーヤー.....	85
3.1 プレーヤー 画面.....	85
3.1.1 メニューバー.....	86
3.1.2 ビデオ動画再生パネル.....	89
3.1.3 シークバー.....	90
3.1.4 動画再生リモコン.....	91
3.1.5 音量調整パネル.....	92
3.1.6 機能ボタンパネル.....	93
4. AVI 自動作成について.....	96
4.1 AVI 仕様.....	96
4.2 AVI 自動作成イベント追加タイミング.....	96
4.3 AVI 自動作成の流れ.....	97
5. フラッシュエラーログ保存後のレポート作成機能.....	98

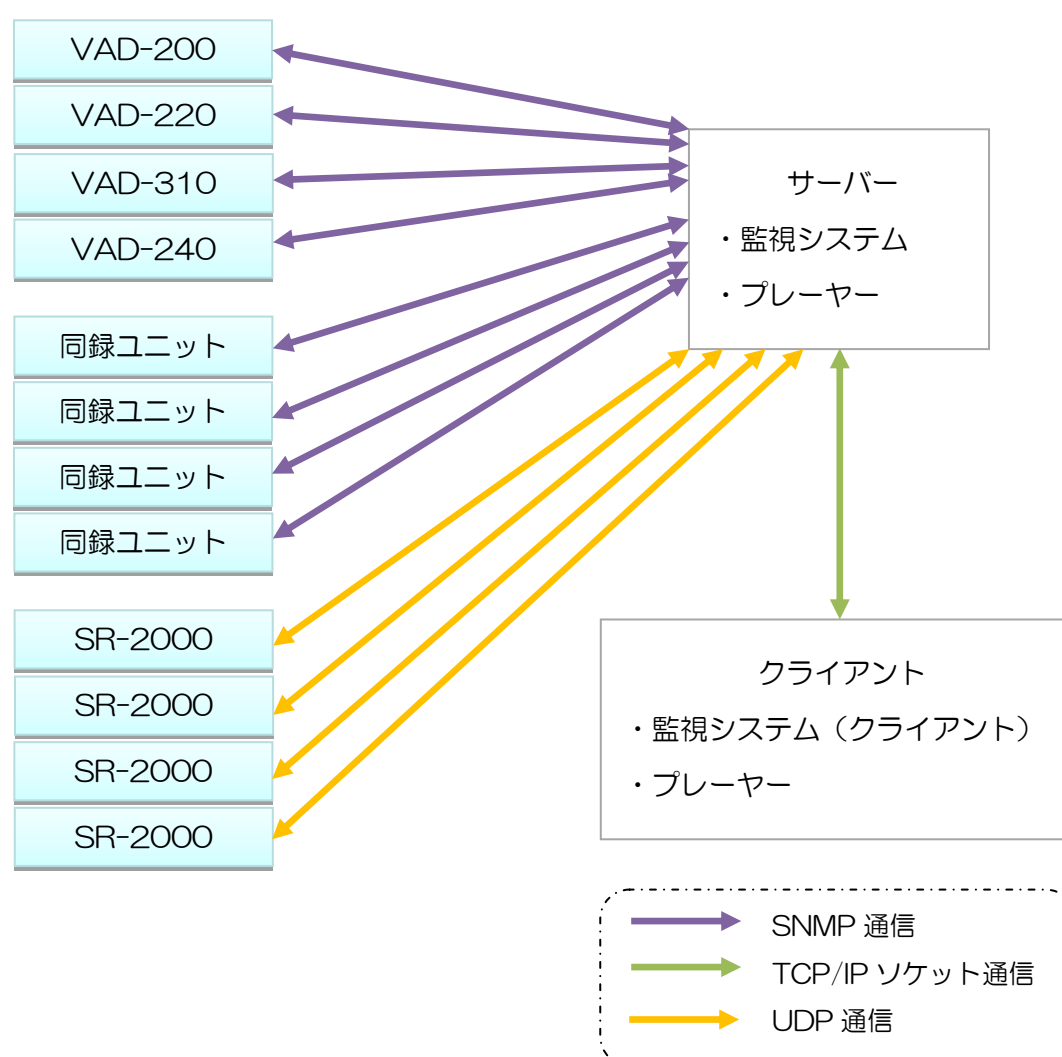
1. 概要

本書は、VAD-F2000 V/Aエラー監視システム（以下、監視システム）の操作について説明するものです。

監視システムは、下記2種類のソフトウェアにおいて操作します。

- ① 監視システム
- ② 直近同録プレーヤー（以下プレーヤー）

1.1 システム構成図



監視システムの仕様	
ログ最大登録件数	50,000件
AVI 自動作成イベント最大保持数	500 件（＊１）
AVI ファイル最大秒数	60 秒

（＊１） AVI 自動作成イベントが 500 件を超えた場合、アラームによる自動作成イベントの日付が古いものからを削除します。

2. 監視システム

2.1 メイン画面

The screenshot shows the main interface of the VAD-F2000 monitoring system. The title bar reads '画音監視システム «VAD-F2000» サーバー'. The interface includes a top menu bar with '設定' (Settings), 'ログ操作・状況表示' (Log Operation/Status Display), and 'ハード情報参照' (Hardware Information Reference). Below this is a control area with buttons for '検知停止' (Detection Stop), 'エラー' (Error), and 'CH1' (Channel 1), along with a 'VadType2設定値1' (VadType2 Setting Value 1) field. A 'ログ更新中' (Log Updating) indicator is present. The main area features a log table with columns for 'ログ日時' (Log Date/Time), 'CH名称' (Channel Name), '内容' (Content), 'マスク(秒)' (Mask (Seconds)), 'エラー検知日時' (Error Detection Date/Time), 'エラー継続時間' (Error Continuation Time), and 'VITC'. The log table is currently displaying 12 entries. Below the log table is a large area for 'ログ選択サムネイル' (Log Selection Thumbnail). At the bottom, there is a status bar showing '残AVI作成数: 0 残AVI作成秒数: 0秒' (Remaining AVI Creation Count: 0, Remaining AVI Creation Time: 0 seconds) and '自動作成: 待機中' (Automatic Creation: Standby).

ログ日時	CH名称	内容	マスク(秒)	エラー検知日時	エラー継続時間	VITC
2016/02/26 13:37:12		画音監視システムを終了します				
2016/02/26 13:37:35		画音監視システムを起動しました				
2016/02/26 13:37:36	CH1	しきい値設定が正常終了しました。[VadType2設定値1]				
2016/02/26 13:37:36	CH1	マスク値設定が正常終了しました。[VadType2設定値1]				
2016/02/26 13:37:38	CH1	時刻値設定が正常終了しました				
2016/02/26 13:37:39		プレーヤーと接続しました				
2016/02/26 13:41:03		画音監視システムを終了します				
2016/02/26 13:41:33		画音監視システムを起動しました				
2016/02/26 13:41:34	CH1	しきい値設定が正常終了しました。[VadType2設定値1]				
2016/02/26 13:41:34	CH1	マスク値設定が正常終了しました。[VadType2設定値1]				
2016/02/26 13:41:36	CH1	時刻値設定が正常終了しました				
2016/02/26 13:41:37		プレーヤーと接続しました				

詳細については以下を参照してください。

- ① 2.1.1 スタートボタン
- ② 2.1.2 メニューバー
- ③ 2.1.3 エラー検知開始・停止ボタン
- ④ 2.1.4 エラー確認ボタン
- ⑤ 2.1.5 しきい値・マスク値設定選択ボタン
- ⑥ 2.1.6 ログ表示
- ⑦ 2.1.7 サムネイル表示
- ⑧ 2.1.8 AVI 自動作成イベント状態表示

2.1.1 スタートボタン

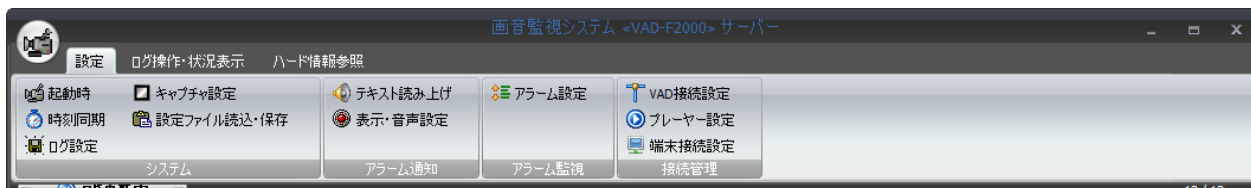
クリックすることで「ソフトウェアバージョン」項目が表示されます。

詳細は 2.5「ソフトウェアバージョン情報」を参照ください。

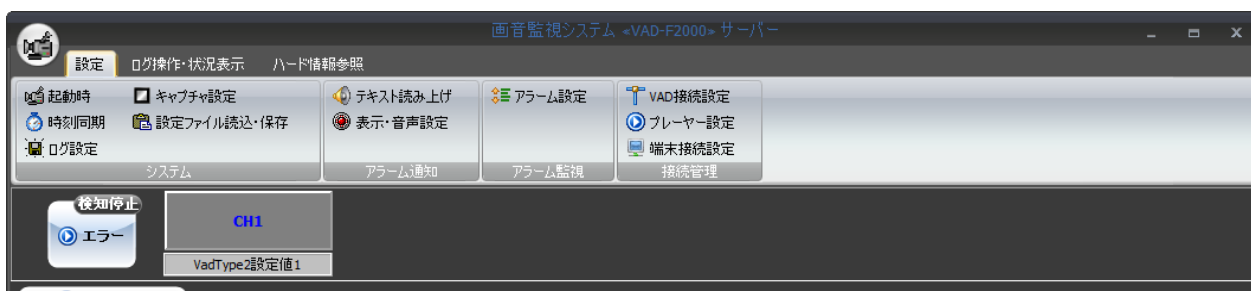
2.1.2 メニューバー

- ・クリックすることで各項目のメニューが表示されます。

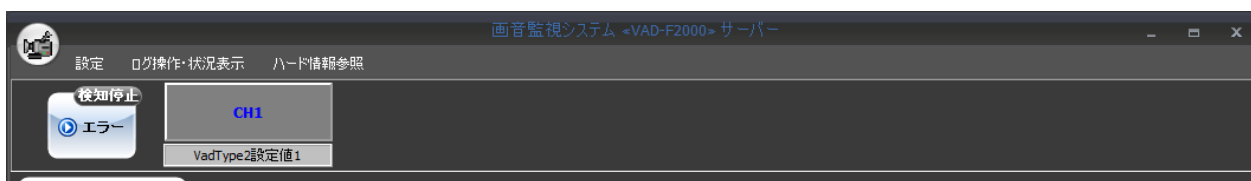
メニューの内容については 2.2「設定」、2.3「ログ操作・状況表示」、2.4「ハード情報参照」を参照ください。



- ・メニュー表示状態でメニューバーをダブルクリックすることで、メニューの下にボタンが表示されます。

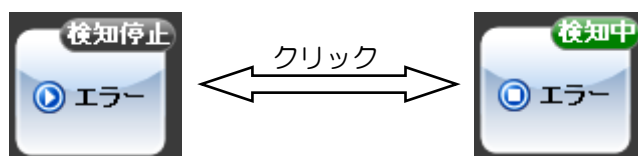


- ・メニュー及びボタン表示状態でメニューバーをダブルクリックすることで、メニューが非表示になります。



2.1.3 エラー検知開始・停止ボタン

- ・エラー検知停止中にクリックすることでエラー検知を開始します。
- ・エラー検知中にクリックすることでエラー検知を停止します。

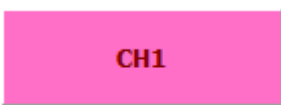


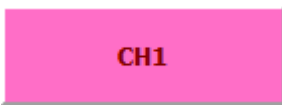
2.1.4 エラー確認ボタン

(1)エラー状況表示及び確認動作

エラー状況をエラー内容に対応したボタン色変化によって表示します。

- ・正常状態では  と表示されます

- ・エラー状態では  に点滅表示されます。

- ・ボタンをクリック（確認動作）することで点滅は止まり、  と表示されます。

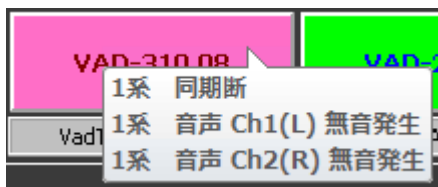
この状態でエラーが回復すると  になります。

- ・エラー状態からボタンをクリック（確認動作）せずにエラーが回復した場合は

 と表示されます。

この状態でボタンをクリック（確認動作）すると  になります。

※エラー発生中はボタンにオンマウスすると、エラー内容がポップアップ表示されます。



(2)接続状況表示

VAD 及び同録ユニットと通信が切断された場合、システムエラーが発生している場合、VAD が起動中の場合は、それぞれボタン上にエラー表示されます。

VAD のみ切断時



同録ユニットのみ切断時



VAD・同録どちらも切断時



システムエラー発生時



VAD 起動中



※システムエラー発生時は、「システムエラー」にオンマウスすると、エラー内容がポップアップ表示されます。



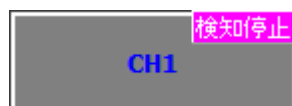
(3)検知停止設定

チャンネル毎に個別に検知を停止することができます。

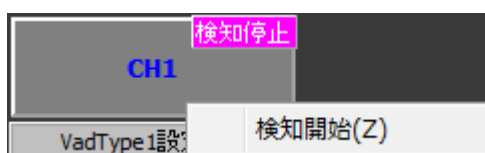
ボタン上で右クリックし、表示される「検知停止」をクリックします。



検知停止中はボタン上に表示されます。



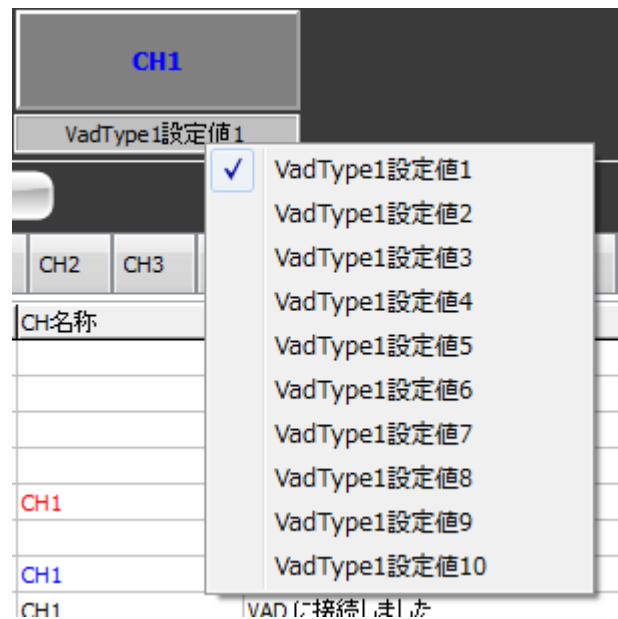
検知開始するには、検知停止中のボタン上で右クリックし、表示される「検知開始」をクリックします。



2.1.5 しきい値・マスク値設定選択ボタン

2.2.8「VAD しきい値・マスク値設定」にて設定したしきい値、マスク値のパターンを各チャンネルに割り当てます。

ボタンエリア内で右クリックし、表示されるリストより選択します。



また、ボタンエリア内をダブルクリックすることで現在設定されている設定値の2.2.8「VAD しきい値・マスク値設定」画面が表示されます。

2.1.6 ログ表示

- ・各エラー、各イベントの発生日時と内容を表示します。

ログ更新中												30 / 30
すべて	CH1	CH2	CH3	CH4	CH5	CH6	CH7	CH8	CH9	CH10	CH11	CH12
ログ日時	CH名称	内容							マスク(秒)	エラー検知日時	エラー継続時間	VITC
2016/03/22 10:51:34		プレーヤーと接続しました										
2016/03/22 10:52:36		画音監視システムを終了します										
2016/03/22 10:52:56		画音監視システムを起動しました										
2016/03/22 10:52:57	CH1	VAD と切断了しました										
2016/03/22 10:52:59		プレーヤーと接続しました										
2016/03/22 10:59:05	CH1	VAD IP設定変更										
2016/03/22 10:59:05	CH1	VAD に接続しました										
2016/03/22 10:59:05	CH1	しきい値設定が正常終了しました。[VAD-220 設定値1]										
2016/03/22 10:59:05	CH1	マスク値設定が正常終了しました。[VAD-220 設定値1]										
2016/03/22 10:59:05	CH1	しきい値設定が正常終了しました。[VAD-220 設定値1]										
2016/03/22 10:59:06	CH1	マスク値設定が正常終了しました。[VAD-220 設定値1]										
2016/03/22 10:59:07		VAD 接続設定変更										
2016/03/22 10:59:08	CH1	時刻設定が正常終了しました										
2016/03/22 10:59:08		プレーヤーと接続しました										
2016/03/22 10:59:43	CH1	VADステータス 正常										

- ・ログは機器毎にタブ分けされています。

・  ボタンをクリックすると、ログ更新を一時停止します。

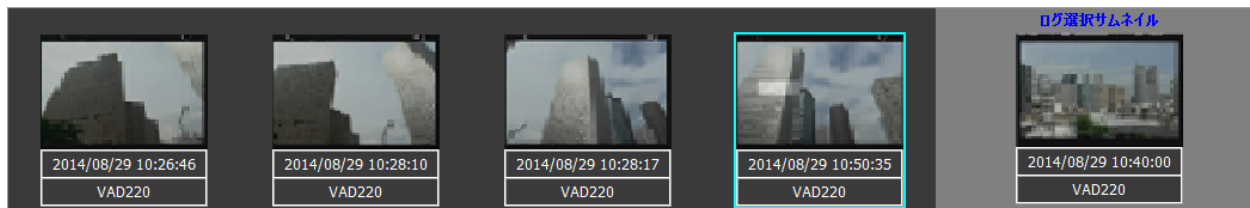
 ボタンをクリックするとログ更新を再開します。

- ・右上に「選択中のログ No./現在のログ総数（最大 1,000 件）」が表示されます。
- ・エラーログをダブルクリックすると AVI ファイルが作成され、プレーヤーにて再生されます。
- ・自動作成された AVI ファイルや以前作成した AVI ファイルがある場合は、作成を行わずにその AVI ファイルが再生されます。
- ・SR-2000 と接続している場合、エラー発生時間がセットされた SR-2000 操作パネルが表示されます。
詳細は「2. 5 SR-2000」をご確認ください。

- ・ログ上で右クリックすると  が表示され、クリックすることでログを全て削除することができます。

2.1.7 サムネイル表示

- ・2.2.9「サムネイル・動画自動作成設定」でサムネイル項目にチェックをつけたエラーが発生した際に、サムネイルが表示されます。



- ・最新4件のサムネイルとログ選択サムネイルが表示されます。
- ・エラーログをクリックすると「ログ選択サムネイル」に表示されます。
クリックしたエラーログが最新4件の中にある場合はそのサムネイルに水色の枠が付きます。
- ・サムネイルをダブルクリックすると AVI ファイルが作成され、プレーヤーにて再生されます。
- ・自動作成された AVI ファイルや以前作成した AVI ファイルがある場合は、作成を行わずにその AVI ファイルが再生されます。

2.1.8 AVI 自動作成イベント状態表示

- ・監視システム内で保持している AVI 自動作成イベントの残数、
作成予定 AVI ファイルの合計秒数および自動作成の状態を表示しています。
- ・エラーによる AVI 自動作成は **アラーム 残AVI作成数：0 残AVI作成秒数：0秒** に表示されます。
- ・AVI 自動作成イベントが無い場合は **自動作成:待機中** と表示されます。
- ・AVI 自動作成を行っている場合は **自動作成:作成中** と表示されます。
- ・AVI 自動作成イベントが存在するが、HDD 残容量が規定値に達している場合、
または同録ユニットとの通信が切断状態である場合は **自動作成:停止中** と表示されます。

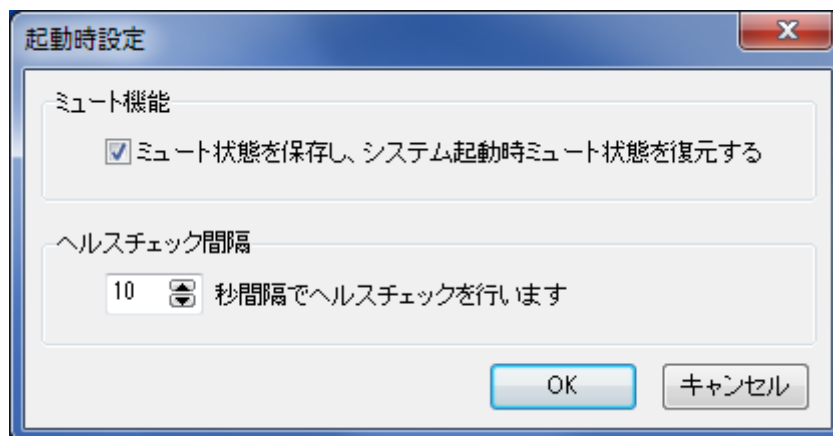
※2.2.12「端末接続設定」にて、「クライアントとする」を選択している場合は表示されません。

2.2 設定

2.2.1 起動時設定

◇ソフトウェア起動時に前回設定したミュート状態の復元の有無を設定します。

◇VAD-F2000 のヘルスチェック間隔を設定します。



(1) 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「システム」カテゴリ内→「起動時」をクリックします。

(2) 設定

① ミュート機能

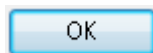
チェックを入れることでシステム終了時にミュート状態を保存し、システムを起動した際にはミュート状態を復元します。

※ミュート状態とは、2.1.4「エラー確認ボタン」(3)“検知停止設定”にて検知停止させた状態のことをいいます。

② ヘルスチェック間隔

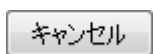
- ・ 設定した間隔で VAD-F2000 に対するヘルスチェックを行います。
- ・ 値の範囲は 10～3600 秒です。

(3) 設定の保存と本画面の終了



ボタンをクリックすることで設定を保存し本画面を閉じます。

(4) 本画面の終了



ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックせずに「キャンセル」ボタンをクリックした場合は変更した設定値は無効となります。

2.2.2 時刻同期設定

◇ 時刻を補正するための時刻取得方法と補正のタイミングを設定します。

時刻同期設定

時刻の取得方法
外部からの時刻をPCIに設定すると共にハードウェアへの設定も行います。

☒ NTPサーバーを使用して時刻合わせを行う
NTPサーバーのIPアドレス

☐ HTTPを使用して時刻合わせを行う (webサーバーが必要です)
WebサーバーのIPアドレス

☐ 外部から時刻を取得しない (PCの時刻をハードウェアに設定します)

時刻合わせの契機

☐ 1日に2回 時と 時に合わせます

☐ 毎日 時に合わせます

☒ 経過時間 分毎に合わせます

SR-2000設定

※「0」を設定すると時刻補正を行いません

ポート番号

前回時刻合わせ: 2015/12/02 12:14:26 システム時刻設定正常終了

(1) 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「システム」カテゴリ内→「時刻同期」をクリックします。

(2) 時刻の取得方法

① NTPサーバーを使用

☒ NTPサーバーを使用して時刻合わせを行う にチェックをし、NTPサーバーのIPアドレスを入力します。

② HTTPサーバーを使用

☒ HTTPを使用して時刻合わせを行う (webサーバーが必要です) にチェックをし、WEBサーバーのIPアドレスを入力します。

③ 外部から時刻を取得しない

☒ 外部から時刻を取得しない (PCの時刻をハードウェアに設定します) にチェックをします。
この設定をした場合であってもPCとVAD-F2000の時刻同期は行います。

(3)時刻合わせの契機

①日に 2 回

 1日に2回  1  時と  13  時に合わせます にチェックをし、時刻補正を行う

時刻を入力します。

②日に 1 回

 毎日  2  時に合わせます にチェックをし、時刻補正を行う時刻を入力します。

③日に数回

 経過時間  60  分毎に合わせます にチェックをし、時刻補正間隔を入力します。

・設定範囲は＜1＞～＜1440＞です。

※23:55:00～0:05:00 の間は時刻補正を行いません。

(4)SR-2000 設定

時刻補正を行うために SR-2000 と通信を行う必要があります。

SR-2000 のポート番号を入力します。

※「0」を設定すると時刻補正を行いません。

SR-2000 と接続していない場合は設定の必要はありません。

(5)手動時刻合わせ機能

設定されている時刻の取得方法を使用し、手動での時刻合わせを行います。



ボタンをクリックします。

(6)設定の保存と本画面の終了



ボタンをクリックすることで設定を保存し本画面を閉じます。

(7)本画面の終了

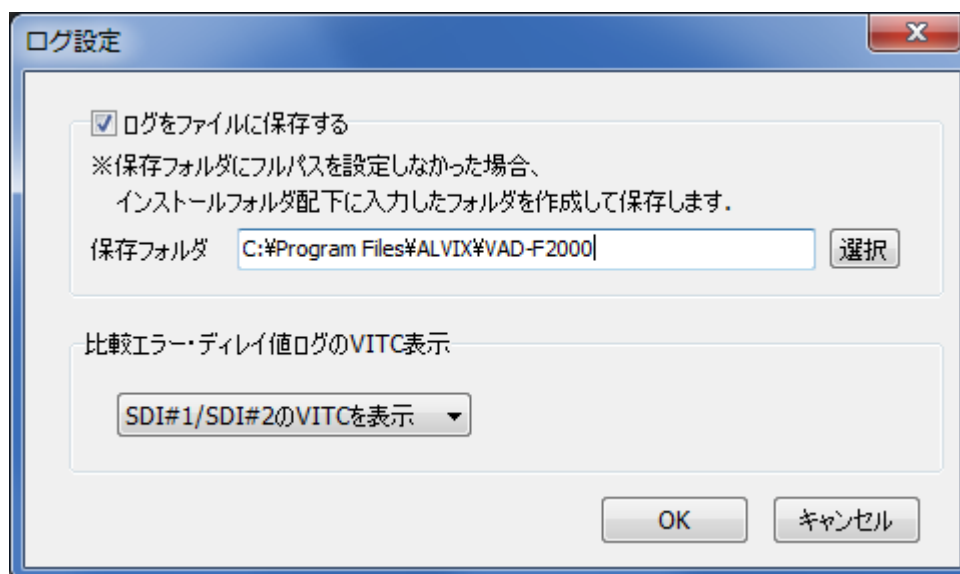


ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックせずに「キャンセル」ボタンをクリックした場合は変更した設定値は無効となります。

2.2.3 ログ設定

◇ 発生したログの保存フォルダ及び比較エラー・ディレイ値ログの VITC 表示を設定します。



(1) 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「システム」カテゴリ内→「ログ設定」をクリックします。

(2) 設定

① ログをファイルに保存する

チェックを入れることでログを CSV 形式で保存します。

② 保存フォルダ設定

・ CSV ファイルを保存するフォルダを設定します。

・ **選択** をクリックしてフォルダ参照画面より保存フォルダを選択するか、直接パスを入力してください。

・ 設定できるパスは200文字までです。

※保存時は設定フォルダの配下に“年”フォルダ及び“月”フォルダを自動作成し、その配下に“ログ_年月日.csv”という形式で保存されます。

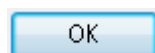
③ 比較エラー・ディレイ値ログの VITC 表示

・ 比較エラー・ディレイ値ログの VITC 表示を設定します。



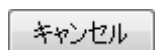
をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3) 設定の保存と本画面の終了



ボタンをクリックすることで設定を保存し本画面を閉じます。

(4) 本画面の終了

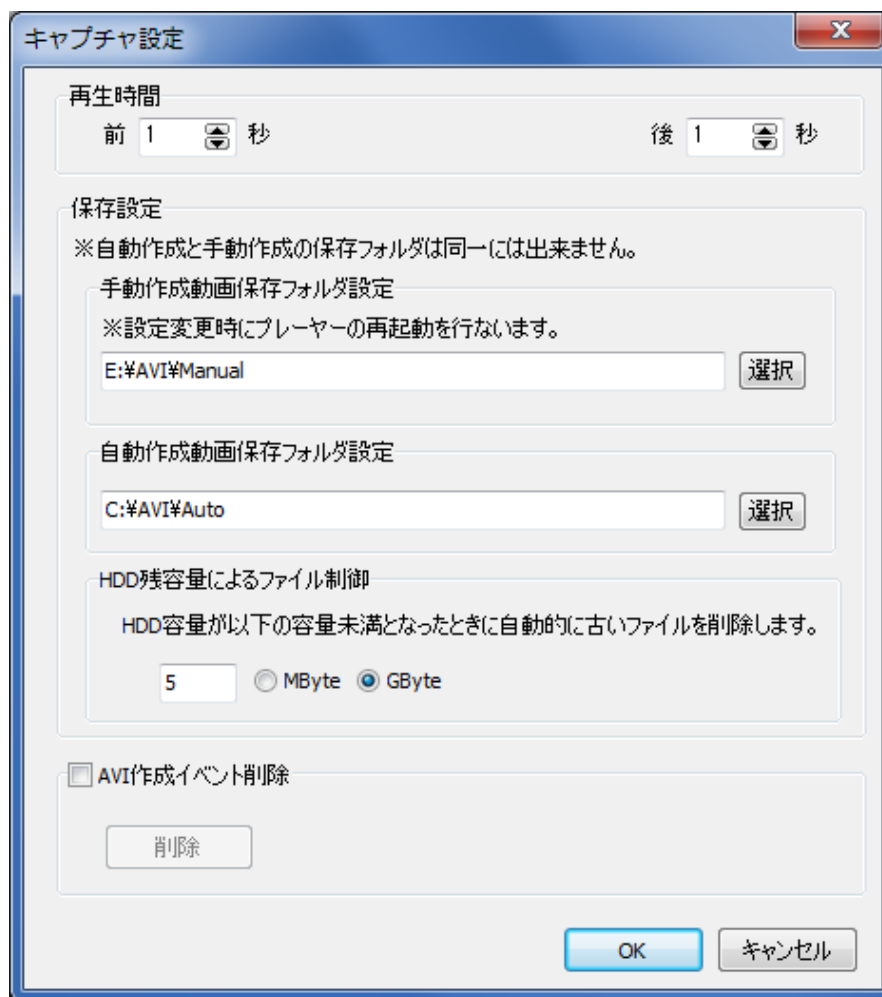


ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックせずに「キャンセル」ボタンをクリックした場合は変更した設定値は無効となります。

2.2.4 キャプチャ設定

◇ AVI の自動作成及び手動作成の設定を行います。



(1) 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「システム」カテゴリ内→「キャプチャ設定」をクリックします。

(2) 設定

① 再生時間

- ・ 作成する AVI の再生時間を設定します。アラーム発生時刻からの前・後秒を設定します。
- ・ 値の範囲は前秒が 0～30 秒、後秒が 1～30 秒です。

② 手動作成動画保存フォルダ設定

- ・ 手動で作成する AVI ファイルを保存するフォルダを設定します。
- ・ **選択** をクリックしてフォルダ参照画面より保存フォルダを選択するか、直接パスを入力してください。
- ・ 設定できるパスは 200 文字までです。

※設定を変更すると、プレーヤーが自動で再起動されます。

③自動作成動画保存フォルダ設定

- ・自動で作成される AVI ファイルを保存するフォルダを設定します。
- ・ **選択** をクリックしてフォルダ参照画面より保存フォルダを選択するか、直接パスを入力してください。
- ・設定できるパスは200文字までです。

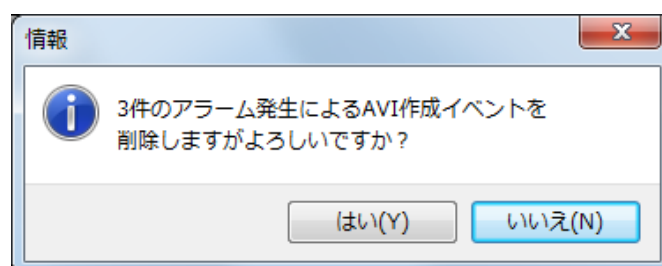
※自動作成と手動作成の保存フォルダは同一にはできません。

④HDD 残容量によるファイル制御

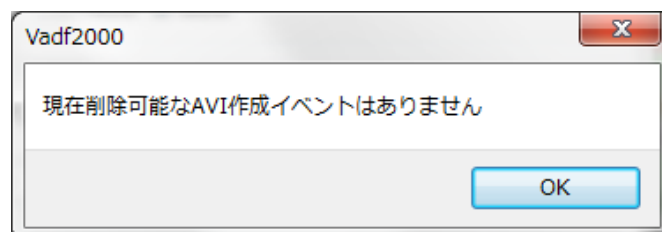
- ・HDD 残容量が設定した容量に達した際に古いファイルから自動で作成済み AVI ファイルを削除します。
- ・値を入力し、単位を ☐ MByte または ☐ GByte から選択して下さい。

⑤AVI 作成イベント削除

- ・ ☒ **AVI作成イベント削除** にチェックを入れることで **削除** がクリック可能になります。
- ※チェック後、5秒経過すると自動的にチェックが解除されます。
- ・ **削除** をクリックすると以下のダイアログが表示されます。



- ・ **はい(Y)** をクリックすることでアラーム発生による AVI 作成イベントを削除します。
- ・削除可能なイベントが無い場合は以下のダイアログが表示されます。



(3)設定の保存と本画面の終了

OK ボタンをクリックすることで設定を保存し本画面を閉じます。

(4)本画面の終了

キャンセル ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックせずに「キャンセル」ボタンをクリックした場合は変更した設定値は無効となります。

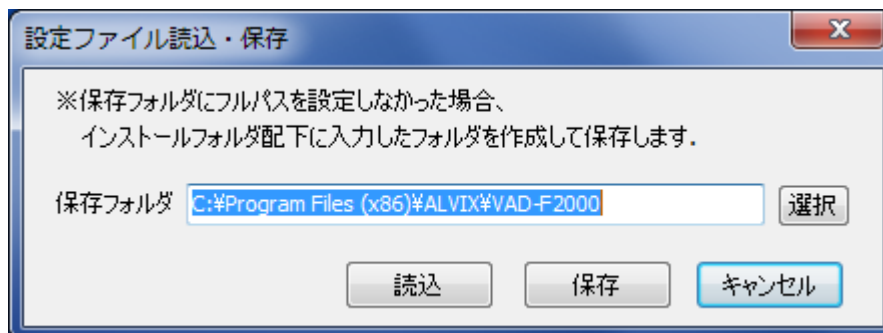
2.2.5 設定ファイル読込・保存

◇監視システムでの各設定値をファイルとして保存します。

また、保存してある設定ファイルを読み込んで監視システムに反映します。

※保存した設定ファイルは手動で編集しないでください。読込できなくなる恐れがあります。

◇この設定は PC 固有の設定です。



(1) 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「システム」カテゴリー内→「設定ファイル読込・保存」をクリックします。

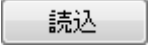
(2) 保存先フォルダの選択

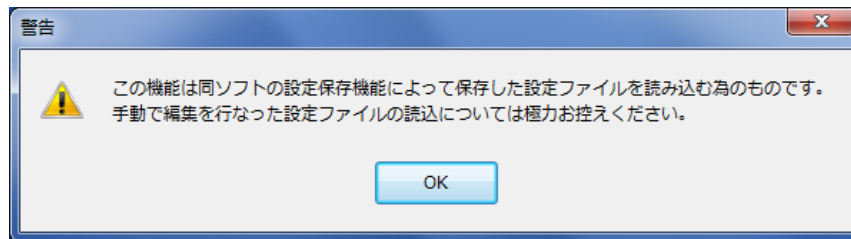
- ・設定ファイルを保存するフォルダを設定します。
- ・ **選択** をクリックして「フォルダの参照」画面より保存フォルダを選択するか、直接パスを入力してください。
- ・設定できるパスは200文字までです。

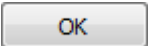
(3) 設定ファイルの保存と本画面の終了

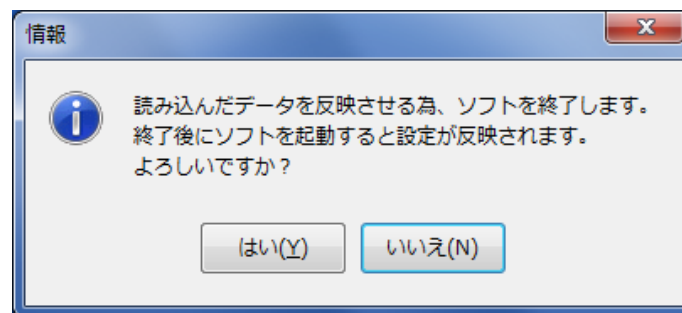
保存 ボタンをクリックすることで設定を保存し本画面を閉じます。

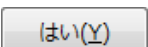
(4) 設定ファイルの読込とソフトウェアの終了

- ・  ボタンをクリックすると以下のダイアログが表示されます。



- ・  ボタンをクリックすると「フォルダの参照」画面が開きますので、設定ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- ・ 以下のダイアログが表示されます。



- ・  ボタンをクリックすると設定を反映させるためソフトが自動で終了します。終了後、ソフトを起動させてください。

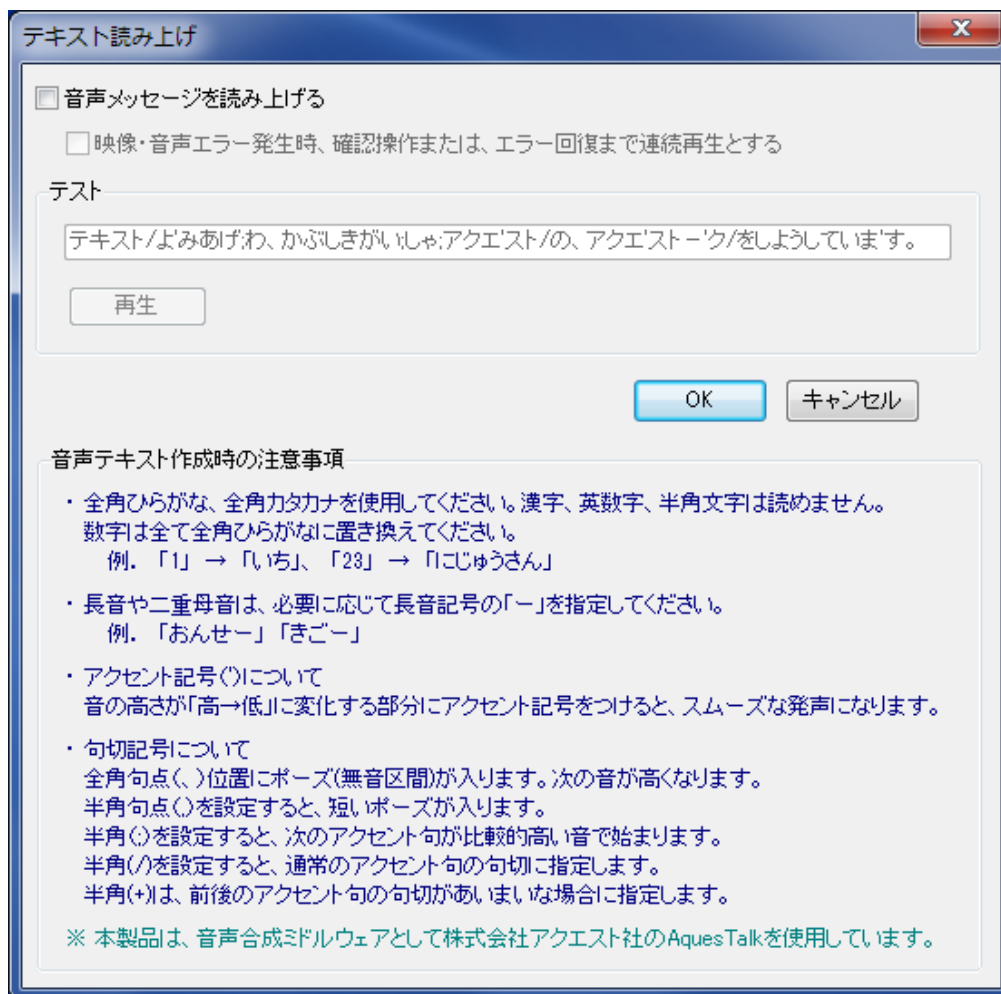
(5) 本画面の終了

- ・  ボタンをクリックします。

2.2.6 テキスト読み上げ

◇音声メッセージ読み上げの有無や連続再生の設定を行います。

◇この設定は PC 固有の設定です。



(1) 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「アラーム通知」カテゴリー内→「テキスト読み上げ」をクリックします。

(2) テキスト読み上げの設定

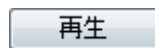
- ・ ☒ 音声メッセージを読み上げる をチェックすることでエラー発生時に
2.2.7「VAD アラーム通知設定」にて設定した音声メッセージを読み上げます。
- ・ システムエラー発生時は、固定の音声メッセージを読み上げます。

(3) 連続再生設定

- ・ ☒ 映像・音声エラー発生時、確認操作または、エラー回復まで連続再生とする をチェックすることで
エラー発生時に確認操作またはエラー回復まで連続で音声メッセージを読み上げます。
- ※(2)にて ☐ 音声メッセージを読み上げる のチェックを外す则该機能は無効となります。

(4) 音声メッセージの作成と再生

テスト内の文章を読み上げます。



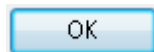
ボタンをクリックするとテキストボックス内の文章を1回読み上げます。

※(2)にて ☐ 音声メッセージを読み上げる のチェックを外すとこの機能は無効となります。

(5) 音声テキスト作成時の注意事項

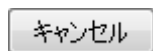
音声メッセージを設定する際の注意事項です。こちらを参考にメッセージを作成します。

(6) 設定の保存と本画面の終了



ボタンをクリックすると、設定を保存し本画面を閉じます。

(7) 本画面の終了



ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックせずに「キャンセル」ボタンをクリックした場合は変更した設定値は無効となります。

2.2.7 VAD アラーム通知設定

◇エラー発生時のアラームログ・アラームログ色・音声メッセージの設定を行います。

VADアラーム通知設定

【設定一覧】 ※ 回復時のログは、発生エラーログ中の文言“発生”または、“異常”を“回復”に置き換えて表示します。

VAD-200 VAD-220 VAD-310 VAD-240

名称	項目0	項目1	項目2	項目3
VADステータス	VADステータス 正常	VADステータス 電源ユニット1異常	VADステータス 電源ユニット2異常	
[SD#1]映像信号状態		1系 同期断		
[SD#1]ベース ステータス		1系 映像(ベース) ブラック発生	1系 映像(ベース) フリーズ発生	
[SD#1]ベース フリーズ&無音		1系 映像(ベース) フリーズ&無音		
[SD#1]ベース 輝度レベル		1系 映像(ベース) 輝度レベル上	1系 映像(ベース) 輝度レベル下	
[SD#1]ベース 色差レベル		1系 映像(ベース) 色レベル上	1系 映像(ベース) 色レベル下	
[SD#1]ウィンドウ ステータス		1系 映像(ウィンドウ) ブラック発生	1系 映像(ウィンドウ) フリーズ発生	

名称	項目0	項目1	項目2	項目3
VADステータス				
[SD#1]映像信号状態		どうきだん/です。		
[SD#1]ベース ステータス		ブラック/です。	フリーズ/です。	
[SD#1]ベース フリーズ&無音		ふりーずあんどむおん/です。		
[SD#1]ベース 輝度レベル		きどれべる/じょうげんエラー/です。	きどれべる/かげんエラー/です。	
[SD#1]ベース 色差レベル		しきされべる/じょうげんエラー/です。	しきされべる/かげんエラー/です。	
[SD#1]ウィンドウ ステータス		ブラック/です。	フリーズ/です。	

【編集】 設定一覧より編集する項目をクリックしてください。

項目名	アラームログ	音声メッセージ
正常	VADステータス 正常	
電源ユニット1異常	VADステータス 電源ユニット1異常発生	
電源ユニット2異常	VADステータス 電源ユニット2異常発生	
ファン異常	VADステータス ファン異常発生	
温度異常	VADステータス 温度異常発生	
メインユニット異常	VADステータス メインユニット異常発生	
起動中	VADステータス 起動中	

※ アラームログ編集セルを右クリックすると表示色を変更できます

更新 やり直し 再生 ⓘ

閉じる

(1) 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「アラーム通知」カテゴリ内→「VAD アラーム」をクリックします。

(2) 設定

① VAD の選択

左上の各タブをクリックすることで、設定する VAD を選択します。

【設定一覧】 ※ 回復時の

VAD-200 VAD-220 VAD-310 VAD-240

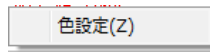
名称	項目0
VADステータス	VADステータス 正常

② アラームログの設定

- ・【設定一覧】からエラーの種類を選択します。
- ・【編集】エリアの「アラームログ」にてログを設定します。

③アラームログ色の設定

- ・【設定一覧】からエラーの種類を選択します。
- ・【編集】エリアのアラームログ編集セルを一度選択してから右クリックし、

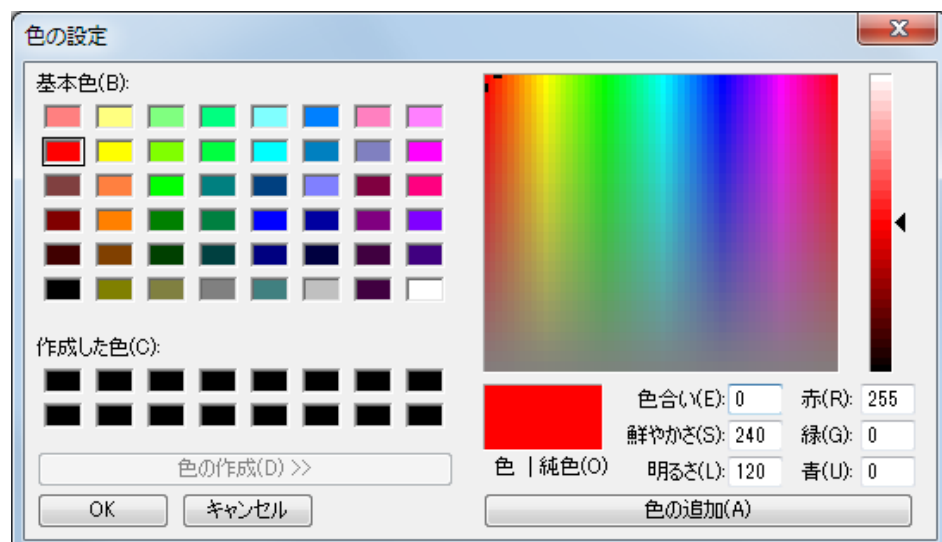


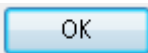
をクリックすることで以下の画面を表示します。



- ・設定する色を選択します。
- ・  をクリックすることで色作成画面を表示し、

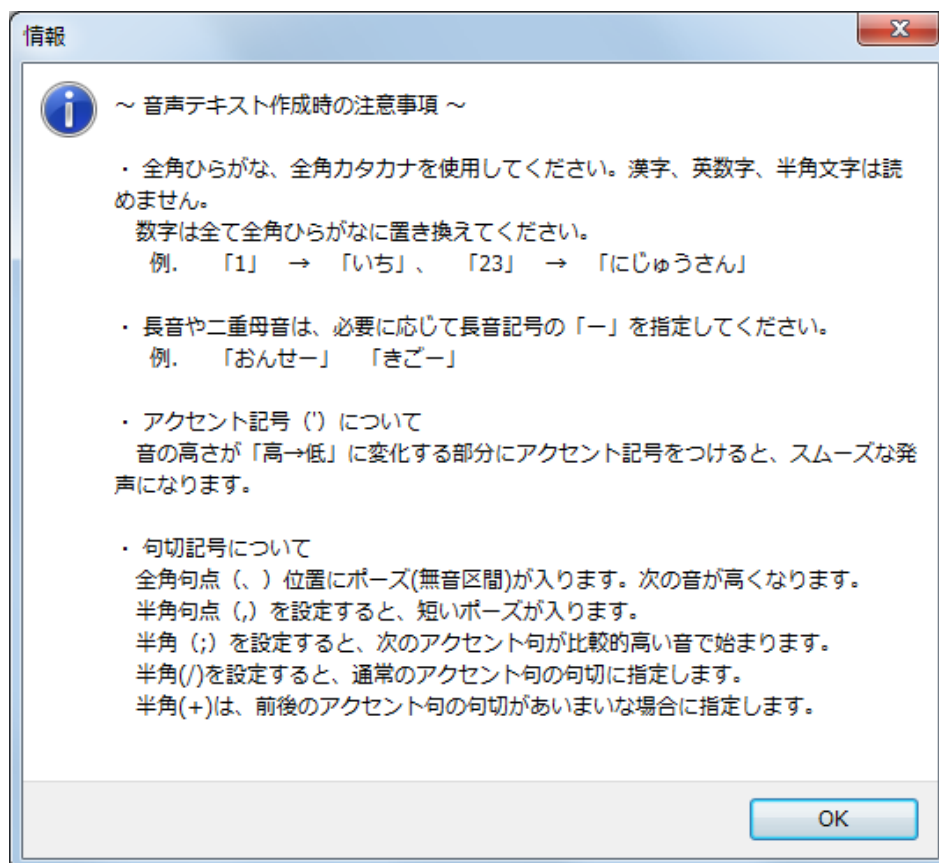
任意の色を作成して  をクリックすることで作成した色を選択することが出来ます。



- ・  をクリックして色を設定します。

④音声メッセージの設定

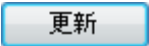
- ・【設定一覧】からエラーの種類を選択します。
- ・【編集】エリアの「音声メッセージ」にてテキスト読み上げ内容を設定します。
- ・  をクリックすることで、【編集】エリアで選択中の音声メッセージが再生されます。
- ・  をクリックすることで音声テキスト作成時の注意事項が表示されます。



(3)設定のやり直し

 をクリックすることで設定変更前状態に戻すことができます。

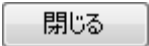
(4)設定の更新

 をクリックすることで設定を更新します。

※設定の更新はエラー項目毎に行ってください。

更新ボタンを押さずにエラー項目を移動すると設定内容は更新されません。

(5)本画面の終了

 ボタンをクリックします。本画面を閉じます。

2.2.8 VAD しきい値・マスク値設定

◇ VAD に設定するしきい値・マスク値・サムネイル表示有無・動画自動作成有無を編集・設定します。

10 種類の設定値のパターンを登録することができます。

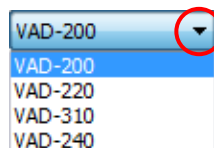


(1) 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「アラーム監視」カテゴリー内→「アラーム設定」をクリックします。

(2) VAD の選択

設定する VAD を選択します。

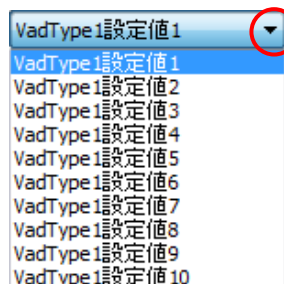


をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3) 設定値の選択

10 パターンの設定を登録できます。

登録する設定番号を選択します。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

(4) 設定名称の変更

各設定の名称を変更できます。

(5) しきい値・マスク値・サムネイル表示有無・動画自動作成有無設定画面の切り替え

表示したい設定画面を選択します。

- ・ しきい値設定

エラーだと判断する基準となる値を設定します。

- ・ マスク値設定

マスクとはある特定のエラーが実発生した際、設定したマスク値の秒数分だけ発報を遅らせ、マスク時間が経過した後もアラームが持続していたら発報するという意味です。

- ・ サムネイル表示設定

エラー発生時にメイン画面上にサムネイル表示をするエラー項目を設定します。

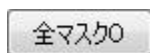
- ・ 動画自動作成設定

エラー発生時に AVI ファイルを自動で作成するエラー項目を設定します。

(6) 設定画面の切り替えタブ

各タブをクリックすることで設定画面を表示します。

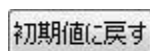
VAD によって設定できない項目はグレー表示となります。

(7) 全マスク値0ボタン

ボタンをクリックすることで全てのマスクを0にします。

※マスク値設定画面を表示している場合のみボタンクリックが可能です

※「適用」「OK」ボタンをクリックするまでは設定値の保存・VAD への送信は行いません。

(8) 初期値に戻すボタン

ボタンをクリックすることで設定値を初期値に戻します。

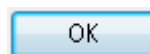
※(5)にて「しきい値設定」「マスク値設定」どちらか選択した項目内全てを初期値に戻します。

※「適用」「OK」ボタンをクリックするまでは設定値の保存・VAD への送信は行いません。

(9) 設定値の保存

ボタンをクリックします。

※設定値に変化がない場合、ボタンは無効となります。

(10) 設定の保存と本画面の終了

ボタンをクリックします。

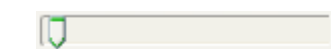
※設定値に変化がない場合、ボタンは無効となります。

(11)本画面の終了

 ボタンをクリックします。

「適用」ボタンをクリックせずに「キャンセル」ボタンをクリックした場合は変更した設定値は無効となります。

** トラックバーの操作方法 **



 をドラッグ（マウスの左ボタンを押したまま）、または、 をクリックしキーボードの「←」「→」キーで左右に動かします。

設定値はトラックバーの右端に表示されます。

** マスク値設定／ログーマスク値設定 **

通知を行いたいエラー項目は、右側の ☒ 通知する にチェックを付けた上で各アラーム通知の秒数設定や通知する／しないの設定を行ってください。

** 設定値のコピー・貼りつけ **

コピー元 : VadType1設定値1
しきい値のコピー
しきい値の貼り付け

コピー元 : VadType1設定値1
マスク値のコピー
マスク値の貼り付け

ウィンドウ内を右クリックすると現在の設定値を他のパターンにコピーすることができます。

しきい値は画面に表示されているタブ内だけでなく、すべてのしきい値がコピーされます。

※設定値を変更した際は「適用」ボタンをクリックしてからコピーしてください。

2.2.8.1 しきい値設定 — 映像レベル

◇ 映像レベルエラーを判断するしきい値を設定します。

① フリーズエラー検出面積(%)

指定以上の割合のドット数がフリーズの場合、フリーズエラーとします。

設定値範囲は<95.0>～<99.9>%です。初期値は<99.0>です。

② ブラックエラー検出面積(%)

指定以上の割合のドット数がブラックの場合、ブラックエラーとします。

設定値範囲は<95.0>～<99.9>%です。初期値は<99.0>です。

③ ブラックエラー検出条件

ブラックエラーの検出条件を選択します。

をクリックし、表示される
リストより選択します。

④ 輝度レベルエラー上限・下限

輝度レベルが上限値以上、または、下限値以下になるとエラーとします。

設定値範囲は下限が<-7>～<0>、上限が<100>～<109>IREです。

初期値は下限が<-4>、上限が<104>です。

⑤ クロマレベルエラー上限・下限

クロマレベルが上限値以上、または、下限値以下になるとエラーとします。

設定値範囲は下限が<-57>～<-50>、上限が<50>～<57>IREです。

初期値は下限が<-54>、上限が<54>です。

2.2.8.2 しきい値設定 — 映像比較

◇ 映像比較エラーを判断するしきい値を設定します。

※VAD-200/VAD-220/VAD-240 のみの設定となります。

しきい値

映像レベル | 映像比較 | 比較対象 | 比較エラー検知範囲座標 | 映像サイズと位置 | 音声レベル | 音声比較 | ラウドネス | 子画面座標 | 輝度フラッシュ | その他

ブロックエラー
 ※映像比較は画面全体を96ブロックに分割し、そのブロック内にエラーがあった時に1ブロックがエラーと判断されます。この設定値を超えた時に通知が行われます。

検知感度 (プリフィルタ設定) 検知しやすい 検知しにくい 0

輝度差 13 IRE

通知ブロック数
 ※エラーブロック数が本設定値を超えた時に通知が行われます。
 0

色差比較エラー
 ベクトル差 10 度

エラー検知しきい値(DotbyDot) ※VAD-220・240のみ

輝度エラー 20.0 IRE エラー面積 10 %

色差エラー 20.0 IRE エラー面積 10 %

輝度比較エラーの比較対象フレーム ※VAD-200のみ
 ± フレーム

①検知感度

プリフィルタ強＝検知感度弱[0]～プリフィルタ弱＝検知感度強[5]となります。

設定値範囲は<0>～<5> です。

初期値は<2>です。

②輝度差

比較エラーとする輝度差を IRE 単位で設定します。画像をドット単位で比較し、設定値以上の輝度差があるドットを不一致とします。

設定値範囲は<0>～<99>IRE です。

初期値は<15>です。

③通知ブロック数

SDI#1 と SDI#2 の映像の比較を行い、不一致ブロック数が指定値を超える場合、エラーとします。

設定値範囲は<0>～<95>です。

初期値は<0>です。

④色差比較エラー

SDI#1 と SDI#2 の映像の色差を比較した結果、ベクトル差が指定値を超える場合にエラーとします。

設定値範囲は<0>～<179>度です。

初期値は<20>です。

⑤エラー検知しきい値 (DotbyDot) (VAD-220/VAD-240 のみ)

輝度比較エラー/色差比較エラーと判断するしきい値を設定します。

・輝度エラー/色差エラー

輝度比較エラー/色差比較エラーを検知する輝度差を設定します。

設定値範囲は<0>～<25>IRE です。初期値は<3>です。

・エラー面積

輝度比較エラー/色差比較エラーを検知するエラー面積を設定します。

設定値範囲は<0>～<10>%です。初期値は<1>です。

※輝度エラー/色差エラーで設定したしきい値を超えた面積の割合が、エラー面積のしきい値を超えると輝度比較エラー/色差比較エラーとなります。

⑥輝度比較エラーの比較対象フレーム (VAD-200 のみ)

輝度比較エラーを検知する比較対象のフレーム遅延量の範囲を設定します。

ここでの設定範囲内でフレーム遅延量の自動調整を行います。

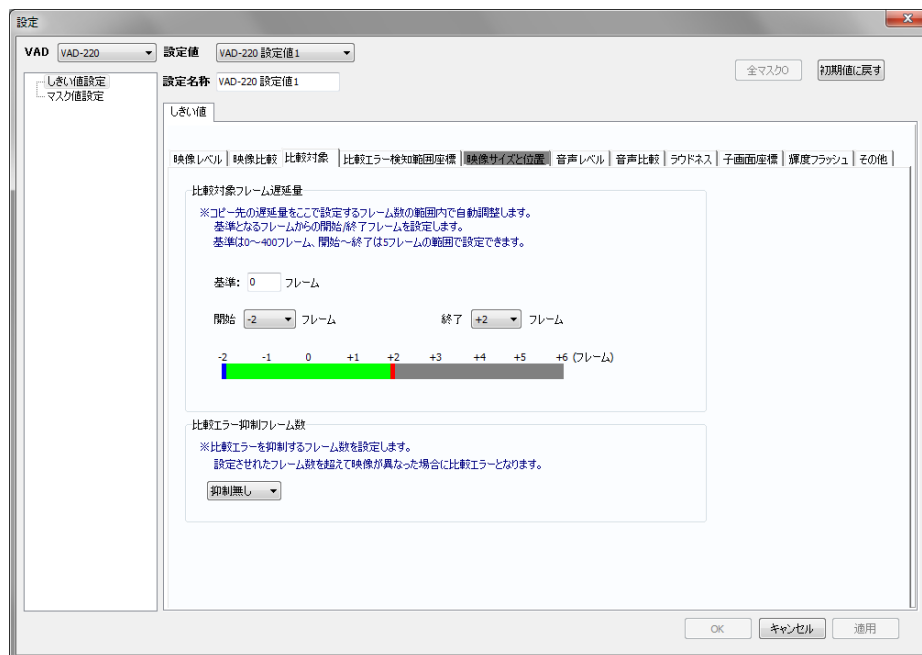
設定値範囲は<±0>～<±4>フレームです。

初期値は<±4>です。

2.2.8.3 しきい値設定 — 比較対象

◇ 比較対象のフレーム遅延量を設定します。

※VAD-220/VAD-240 のみの設定となります。



① 基準遅延量

遅延量の基準値を設定します。

設定値範囲は<0>～<400>です。

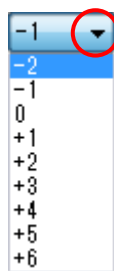
② 比較対象フレーム遅延量

① 基準遅延量より自動調整する遅延量範囲を設定します。

SDI#1 と SDI#2 のフレーム遅延量を最大 5 フレームの範囲で設定します。

開始の設定値範囲は<-2>～<+6>です。初期値は<-2>です。

終了の設定値範囲は<-2>～<+6>です。初期値は<+2>です。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

※開始>終了となる設定はできません。

③ 比較エラー抑制フレーム数

映像が異なった際に比較エラーとしないフレーム数を選択できます。

2.2.8.4 しきい値設定 — 比較エラー検知範囲座標

◇ 輝度比較エラー、色差比較エラーの検知範囲を設定します。

ここで設定された検知範囲内で 2.2.8.4「しきい値設定 — 映像比較」で設定した各比較エラーを検知します。

※VAD-200/VAD-220/VAD-240 のみの設定となります。

「SD」は VAD-200 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合の範囲です。

「HD」は VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合の範囲です。

①水平開始座標(X1)

VAD-200 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合、設定値範囲は <0>～<719>ピクセルです。

VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合、設定値範囲は <0>～<1919>ピクセルです。

②水平終了座標(X2)

VAD-200 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合、設定値範囲は <0>～<719>ピクセルです。

VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合、設定値範囲は <0>～<1919>ピクセルです。

※水平終了座標－水平開始座標>100 である必要があります。

③垂直開始座標(Y1)

VAD-200 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合、設定値範囲は <0>～<485>ピクセルです。

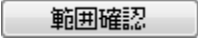
VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合、設定値範囲は <0>～<1079>ピクセルです。

④垂直終了座標(Y2)

VAD-200 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<485>ピクセルです。

VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<1079>ピクセルです。

※垂直終了座標－垂直開始座標>50 である必要があります。

⑤  ボタンをクリックすると、おおよそのイメージを画面右側に表示します。

2.2.8.5 しきい値設定 — 映像サイズと位置

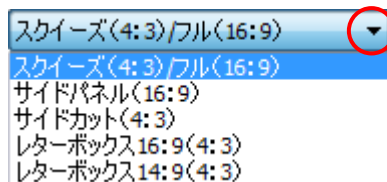
◇ 画角と SDI 入力サイズ、位置を設定します。

※VAD-200 のみの設定となります。



①画角設定

SDI#1、SDI#2の画角を設定します。



をクリックし、表示される
リストより選択します。

②水平サイズ調整

SDI#1 または SDI#2 の入力タイミングが HD-SDI の場合、設定値範囲は
<420～580>です。

③垂直サイズ調整

SDI#1 または SDI#2 の入力タイミングが HD-SDI の場合、設定値範囲は
<410～590>です。

④水平位置調整

設定値は<420～580>ドットです。

⑤垂直位置調整

設定値は<475～525>ドットです。

2.2.8.6 しきい値設定 — 音声レベル

◇ 音声レベルの高／低エラーを判断するしきい値を設定します。

※VAD-310はSDI#1のみの設定となります。

①SDI#1／SDI#2 音声レベル高 しきい値

設定されたしきい値以上となった場合、レベル高エラーとします。

設定値範囲は<-50>～<0>dB です。初期値は<-5>です。

②SDI#1／SDI#2 音声レベル低 しきい値

設定されたしきい値以下となった場合、レベル低エラーとします。

設定値範囲は<-50>～<0>dB です。初期値は<-40>です。

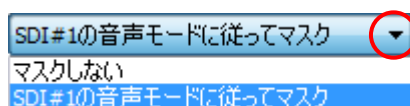
③SDI#1／SDI#2 音声無音 しきい値

設定されたしきい値以下となった場合、無音エラーとします。

設定値範囲は<-60>～<0>dB です。初期値は<-55>です。

④SDI#1／SDI#2 音声エラーマスク方法

各音声チャンネルでエラー発生時に、音声モードにしたがってマスクする／マスクしないを選択します。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

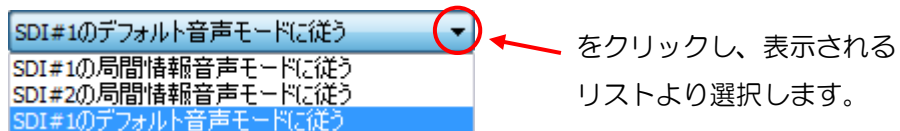
⑤音声モード

音声モードの元ソースを選択します。

- ・「SDI#1／SDI#2 の局間情報音声モードに従う」を選択した場合、選択した SDI の局間情報がある場合はその音声モードに従い、局間情報が無い場合は

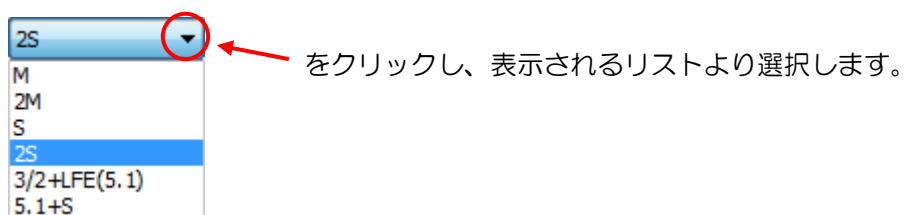
⑥「デフォルト音声モード」で設定した音声モードに従います。

- ・「SDI#1／SDI#2 のデフォルト音声モードに従う」を選択した場合、局間情報の有無にかかわらず、⑥「デフォルト音声モード」で設定した音声モードに従います。



⑥デフォルト音声モード

局間情報が無い場合のデフォルト音声モードを設定します。



2.2.8.7 しきい値設定 — 音声比較

◇ 音声比較エラーを判断するしきい値を設定します。

※VAD-310は③「音声モード」と④「デフォルト音声モード」のSDI#1のみの設定となります。

①検知感度

検知感度弱[0]～検知感度強[5]となります。

設定値範囲は<0>～<5>です。

初期値は<2>です。

②不一致度（VAD-200/VAD-220のみ）

音声比較の相関を元にした不一致度が設定値を上回った場合に不一致とします。

設定値範囲は<0>～<99>です。初期値は<30>です。

③エラー比（VAD-240のみ）

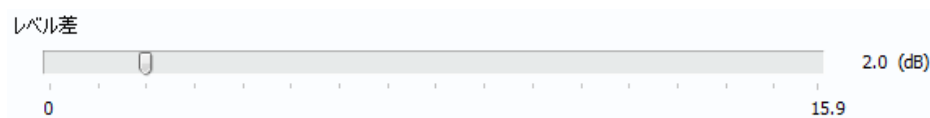
エラー比

※レベル差しきい値を超えるデータ比率が設定値を上回った場合に不一致とします。

④不一致とするレベル差のしきい値を超えるデータ比率を設定します。

設定値範囲は<0.0>～<9.9>%です。初期値は<3.0>%です。

④レベル差（VAD-240 のみ）

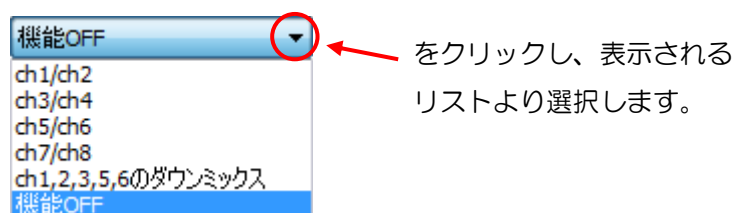


エラーとする音声レベルの差を設定します。

設定値範囲は＜0＞～＜15.9＞ dB です。初期値は＜2.0＞ dB です。

⑤音声比較モジュール 1～4 へ入力する音声チャンネル

☒ 比較音声chを個別で設定する（チェックを外すと音声モードより自動選択されます）にチェックを入れる事で音声比較モジュール 1～4 にて音声比較を行う音声チャンネルを個別に設定できます。



☐ 比較音声chを個別で設定する（チェックを外すと音声モードより自動選択されます）のチェックを外す事で表 2.2.8.7-1 「音声モードによる自動選択」の通りに音声チャンネルを設定します。

音声比較動作については図 2.2.8.7-1 「音声比較動作の流れ」をご確認ください。

表 2.2.8.7-1 音声モードによる自動選択

#2 #1	(*)	5.1+S	2S	5.1	S	2M	M
5.1+S	主	5.1 を比較	5.1 を S に ダウミックスし S と比較	5.1 を比較	5.1 を S に ダウミックスし S と比較	5.1 を M に ダウミックスし M と比較	5.1 を M に ダウミックスし M と比較
	副	S を比較	S を比較	比較しない	比較しない	S を M に ミックスし M と比較	比較しない
	モ	1~4 を使用	1、4 を使用	1~3 を使用	1 を使用	1、4 を使用	1 を使用
2S	主	5.1 を S に ダウミックスし S と比較	S を比較	5.1 を S に ダウミックスし S と比較	S を比較	S を M に ミックスし M と比較	S を M に ミックスし M と比較
	副	S を比較	S を比較	比較しない	比較しない	S を M に ミックスし M と比較	比較しない
	モ	1、4 を使用	1、4 を使用	1 を使用	1 を使用	1、4 を使用	1 を使用
5.1	主	5.1 を比較	5.1 を S に ダウミックスし S と比較	5.1 を比較	5.1 を S に ダウミックスし S と比較	5.1 を M に ダウミックスし M と比較	5.1 を M に ダウミックスし M と比較
	副	比較しない	比較しない	比較しない	比較しない	比較しない	比較しない
	モ	1 を使用	1 を使用	1 を使用	1 を使用	1 を使用	1 を使用
S	主	5.1 を S に ダウミックスし S と比較	S を比較	5.1 を S に ダウミックスし S と比較	S を比較	S を M に ミックスし M と比較	S を M に ミックスし M と比較
	副	比較しない	比較しない	比較しない	比較しない	比較しない	比較しない
	モ	1 を使用	1 を使用	1 を使用	1 を使用	1 を使用	1 を使用
2M	主	5.1 を M に ダウミックスし M と比較	S を M に ミックスし M と比較	5.1 を M に ダウミックスし M と比較	S を M に ミックスし M と比較	M を比較	M を比較
	副	S を M に ミックスし M と比較	S を M に ミックスし M と比較	比較しない	比較しない	M を比較	比較しない
	モ	1、4 を使用	1、4 を使用	1 を使用	1 を使用	1、4 を使用	1 を使用
M	主	5.1 を M に ダウミックスし M と比較	S を M に ミックスし M と比較	5.1 を M に ダウミックスし M と比較	S を M に ミックスし M と比較	M を比較	M を比較
	副	比較しない	比較しない	比較しない	比較しない	比較しない	比較しない
	モ	1 を使用	1 を使用	1 を使用	1 を使用	1 を使用	1 を使用

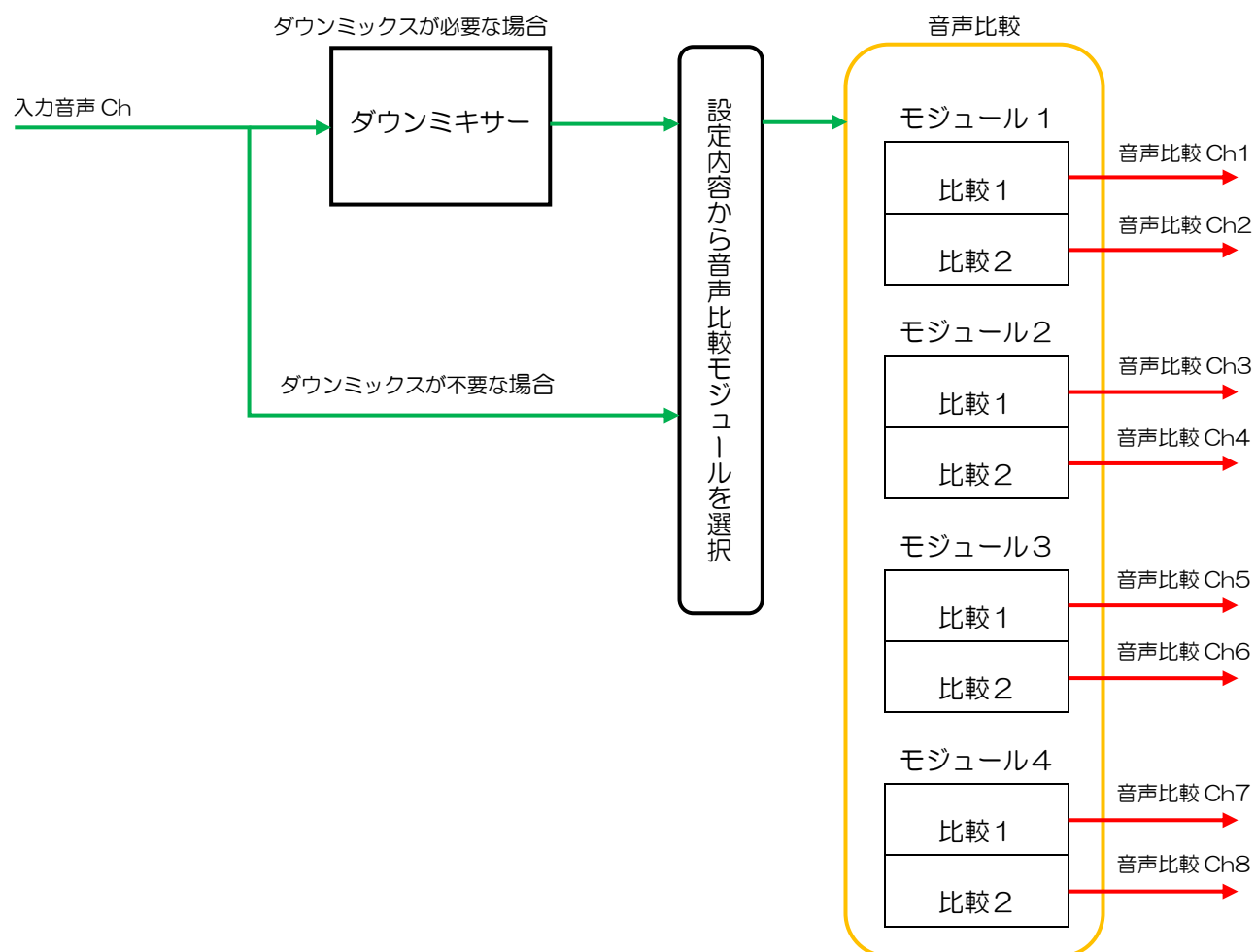
* 「主」＝第一音声、「副」＝第二音声、「モ」＝音声比較モジュール

- ・使用しない音声比較モジュールの機能は OFF となります。
- ・上記に該当しない音声モードの場合は、音声比較モジュール 1~4 を使用し、全 8Ch を比較します。
- ・音声の配置は、下表 2.2.8.7-2「エンベデッドオーディオの配置」を参照してください。

表 2.2.8.7-2 エンベデッドオーディオの配置

		5.1+S	2S	5.1	S	2M	M
グループ 1	CH1	L	L	L	L	主 M	M
	CH2	R	R	R	R	副 M	———
	CH3	C	副 L	C	———	———	———
	CH4	LFE	副 R	LFE	———	———	———
グループ 2	CH5	LS	———	LS	———	———	———
	CH6	RS	———	RS	———	———	———
	CH7	副 L	———	———	———	———	———
	CH8	副 R	———	———	———	———	———

図 2.2.8.7-1 音声比較動作の流れ



2.2.8.8 しきい値設定 — ラウドネス

- ◇ ラウドネスエラーを判別するしきい値を設定します。
※VAD-310 は SDI#1 のみの設定となります。
- ◇ ラウドネスは ARIB TR-B32 に規定された方法で音声レベルを計測したものです。
ショートタームラウドネスは 3 秒間の音声の平均値を示します。
ロングタームラウドネスは計測開始から終了までの音声の平均値を示しますが、
計測中は計測開始から現在までの平均となります。

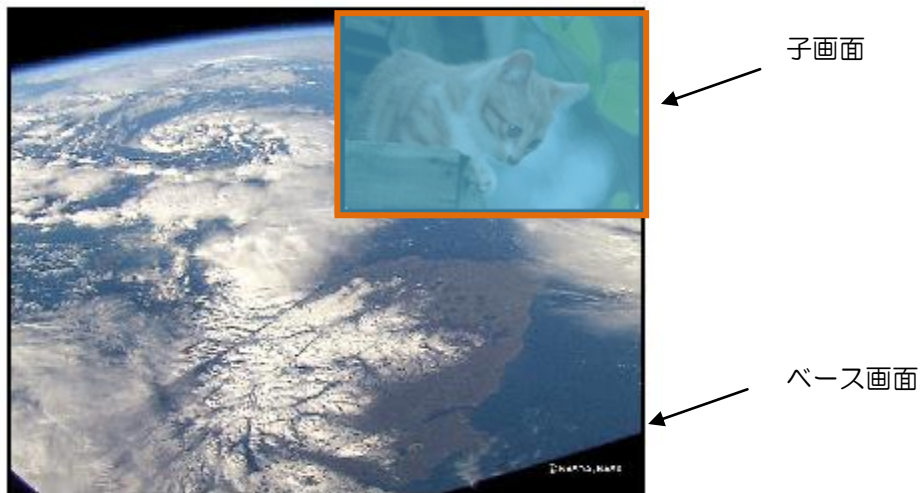
- ①SDI#1／SDI#2 音声ショートタームラウドネス値レベル高
設定されたしきい値以上となった場合、レベル高エラーとします。
設定値範囲は<-50>～<0>dB です。初期値は<-22>です。
- ②SDI#1／SDI#2 音声ショートタームラウドネス値レベル低
設定されたしきい値以下となった場合、レベル低エラーとします。
設定値範囲は<-50>～<0>dB です。初期値は<-26>です。
- ③SDI#1／SDI#2 音声ロングタームラウドネス測定リセット
 - ・連続測定
ロングタームラウドネスの測定を開始し、連続測定を続けます。
 - ・ホールド
測定を一時停止します。次に連続測定を選択するとホールドする前から引き続いて測定を行います。
 - ・リセット
測定値をリセットします。次に連続測定を選択するとそこから測定開始となります。

をクリックし、表示される
リストより選択します。

2.2.8.9 しきい値設定 — 子画面座標

- ◇ベース画面のエラー検知とは別にエラー検知を行う領域（子画面）を指定します。
- 子画面でエラーが発生した場合、ベース画面のエラーとは別にエラーログを表示します。
- 全て'0'の場合は子画面のエラー検知は行いません。

<ベース画面・子画面について>



- ・子画面を設定するとオレンジ枠・内部半透明の青で表示されます。
- ・子画面で検知するエラーはブラック、フリーズ、フリーズ&無音、輝度レベル上限・下限エラー、色レベル上限・下限エラーです。
- ・子画面を設定すると、ベース画面のエラー検知範囲は子画面を除いた部分になります。
- ・この監視システム内では“子画面”は“ウィンドウ”と表現されることもあります。



「SD」は VAD-200/VAD-310 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合の範囲です。

「HD」は VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合の範囲です。

①水平開始座標(X1)

VAD-200/VAD-310 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<719> ピクセルです。

VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<1919> ピクセルです。

②水平終了座標(X2)

VAD-200/VAD-310 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<719> ピクセルです。

VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<1919> ピクセルです。

※水平終了座標－水平開始座標>100 である必要があります。

③垂直開始座標(Y1)

VAD-200/VAD-310 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<485> ピクセルです。

VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<1079> ピクセルです。

④垂直終了座標(Y2)

VAD-200/VAD-310 の場合、VAD-220/VAD-240 の入力信号が SD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<485>ピクセルです。

VAD-220/VAD-240 の入力信号が HD/SDI の場合、設定値範囲は<0>～<1079> ピクセルです。

※垂直終了座標－垂直開始座標>50 である必要があります。

- ⑤ **子画面確認** ボタンをクリックすると、おおよそのイメージを画面右側に表示します。

2.2.8.10 しきい値設定 — 輝度フラッシュ

◇ フラッシュエラーを判別するしきい値を設定します。

しきい値

映像レベル | 映像比較 | 比較対象 | 比較エラー検知範囲座標 | 映像サイズと位置 | 音声レベル | 音声比較 | ラウドネス | 子画面座標 | 輝度フラッシュ | その他

輝度フラッシュエラー-A

輝度信号レベル差 [標準値=10]

小 大 10 %

検知面積 [標準値=25] 25 %

回数 [標準値=3] 3 回

輝度フラッシュエラー-B

輝度信号レベル差 [標準値=20]

小 大 20 %

検知面積 [標準値=25] 25 %

回数 [標準値=3] 3 回

赤フラッシュエラー

輝度信号レベル差 [標準値=20]

小 大 20 %

検知面積 [標準値=20] 20 %

回数 [標準値=3] 3 回

その他

設定値以上の期間、点滅がないとエラー復帰とします。

点滅なしを検出するフィールド数 [標準値=30] 30

① 輝度フラッシュエラー-A/B

- ・ 輝度信号レベル差

輝度フラッシュエラーと判断する輝度信号レベル差を設定します。

設定値範囲は<0>～<99>%です。

初期値は輝度フラッシュエラー-A が<10>、輝度フラッシュエラー-B が<20>です。

- ・ 検知面積

輝度フラッシュエラーと判断するエラーの面積を設定します。

設定値範囲は<0>～<50>%です。初期値は<25>です。

- ・ 回数

点滅の回数を設定します。

設定値範囲は<1>～<10>回です。初期値は<3>です。

※輝度信号レベル差で設定したしきい値を超えた面積の割合が、検知面積のしきい値を超え、それが回数のしきい値を超えて点滅すると輝度フラッシュエラーとなります。

②赤フラッシュエラー

- ・輝度信号レベル差

赤フラッシュエラーと判断する輝度信号レベル差を設定します。

設定値範囲は<0>～<99>%です。初期値は<20>です。

- ・検知面積

赤フラッシュエラーと判断するエラーの面積を設定します。

設定値範囲は<0>～<50>%です。初期値は<20>です。

- ・回数

点滅の回数を設定します。

設定値範囲は<1>～<10>回です。初期値は<3>です。

※輝度信号レベル差で設定したしきい値を超えた面積の割合が、検知面積のしきい値を超え、それが回数のしきい値を超えて点滅すると赤フラッシュエラーとなります。

③その他

フラッシュエラー復帰までのフィールド数を設定します。

ここで設定したフィールド数以上の期間、フラッシュエラーがなければ回復とします。

設定値範囲は<0>～<60>フィールドです。初期値は<30>です。

2.2.8.11 しきい値設定 — その他

しきい値

映像レベル | 映像比較 | 比較対象 | 比較エラー検知範囲座標 | **映像サイズと位置** | 音声レベル | 音声比較 | ラウドネス | 子画面座標 | 輝度フラッシュ | その他

同録設定

同録映像／モニタ映像選択 SDI#1/SDI#2 合成画像 音声バー分割映像 SDI#2音声 解像度:入力映像と同じ

同録音声チャンネル選択 音声モードによる自動選択

モニタ表示設定

範囲表示 表示しない

映像ディレイ設定 ※VAD-200のみ

ディレイ設定 0～180:設定したフレーム数がディレイ値となります。
999:映像から計測

Trapによる通知 ※VAD-220・240 通常動作時のみ

Trapによる通知 ON

VITC連動 エラー通知開始時間 ※VAD-220・240・VITC連動時のみ

VITCが一致してから 6 秒後にエラー通知を開始

VDCPコマンド連動 ※VAD-220・240のみ

VDCPコマンド「REC Start」から、映像の一致までの許容時間 20 秒

映像の一致から、errTrap通知までのマスク期間 1 秒

VDCPコマンド「REC Stop」から、1秒の経過前のerrTrapマスク期間 1 秒

①同録映像／モニタ映像選択

同時録画を行う映像とモニタに表示する映像を選択します。

・ VAD-200 の場合

SDI#1, SDI#2, 合成画像, 音声バー分割映像	SDI#2音声
SDI#1 映像	SDI#1音声
SDI#2 映像	SDI#2音声
SDI#1/SDI#2 合成映像	SDI#2音声
SDI#1, SDI#2, 合成画像, 音声バー分割映像	SDI#2音声
SDI#1/SDI#2 差分表示映像	SDI#2音声
フィルタ確認映像	SDI#2音声

をクリックし、
表示されるリストより
選択します。

・ VAD-220/VAD-240 の場合

SDI#1/SDI#2 合成画像 音声バー分割映像	SDI#2音声	解像度:SD
SDI#1 映像	SDI#1音声	解像度:SD
SDI#2 映像	SDI#2音声	解像度:SD
SDI#1/SDI#2 合成映像	SDI#2音声	解像度:SD
SDI#1/SDI#2 合成画像 音声バー分割映像	SDI#2音声	解像度:SD
SDI#1/SDI#2 差分表示映像	SDI#2音声	解像度:SD
フィルタ確認映像	SDI#2音声	解像度:SD
SDI#1 映像	SDI#1音声	解像度:入力映像と同じ
SDI#2 映像	SDI#2音声	解像度:入力映像と同じ
SDI#1/SDI#2 合成映像	SDI#2音声	解像度:入力映像と同じ
SDI#1/SDI#2 合成画像 音声バー分割映像	SDI#2音声	解像度:入力映像と同じ
SDI#1/SDI#2 差分表示映像	SDI#2音声	解像度:入力映像と同じ
フィルタ確認映像	SDI#2音声	解像度:入力映像と同じ

をクリックし、
表示されるリストより
選択します。

・ VAD-310 の場合

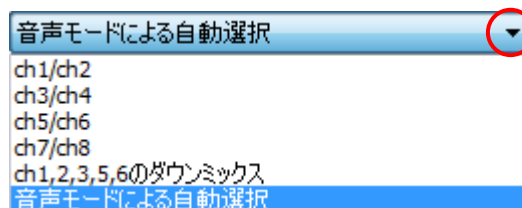
SDI#1 映像	SDI#1音声8ch
----------	------------

※上記のみとなります。

②同録音声チャンネル選択

同時録音を行う音声チャンネルを選択します。

※VAD-310 は SDI#1 のみの設定となります。

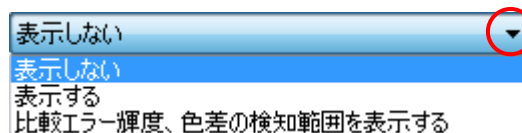


をクリックし、表示される
リストより選択します。

③モニタ表示設定

2.2.8.1「しきい値設定 — 子画面座標」で設定した子画面を表示するかどうかを設定します。

※VAD-200/VAD-220/VAD-240 は 2.2.8.5「しきい値設定 — 比較エラー検知範囲座標」で設定した検知範囲を表示できます。



をクリックし、表示される
リストより選択します。

④映像ディレイ設定（VAD-200 のみ）

設定値範囲は<0>～<180>、<999>です。

<0>～<180>は設定したフレーム数がディレイ値となります。

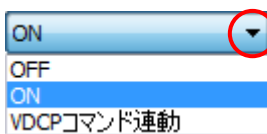
<999>は映像からディレイ値を計測します。

⑤Trap による通知（VAD-220/VAD-240 のみ）

VAD-220 からのエラー通知について設定します。

- ・OFF を選択した場合、err Trap が通知されません。
- ・ON を選択した場合、VDCP Trap が通知されません。
- ・VDCP コマンド連動を選択した場合、VDCP Trap と連動します。

VDCP Trap については次ページ「VDCP Trap について」を参照ください



をクリックし、表示される
リストより選択します。

⑥VDCP コマンド連動（VAD-220 のみ）

上記⑤「Trap による通知」にて VDCP コマンド連動を選択した時のマスク時間を設定します。

- ・VDCP コマンド「REC Start」から、映像の一致までの許容時間
設定値範囲は<0>～<30>秒です。
- ・映像の一致から、errTrap 通知までのマスク期間
設定値範囲は<0>～<5>秒です。
- ・VDCP コマンド「Rec Stop」から、T 秒の経過前の errTrap マスク期間
設定値範囲は<0>～<5>秒です。

⑦VITC 連動

本項目は未対応です。

VDCP Trap について

VAD220 は、オートメーションから受信する VDCP コマンドに基づき、そのコマンドに対応する情報を通知します。

この情報は VDCP Trap とし通常のエラー通知 (err Trap) とは区別されます。

VDCP Trap は次の VDCP コマンドに呼応し、情報を通知します。

①Record Init with Data (CMD-1=AX、CMD-2=2C)

VARIABLE ID LENGTH PRESET/SELECT COMMAND にのみ対応し、素材 ID は 12 文字固定とします。ビデオサーバーからの ACK (06) 応答で、コマンド受信とします。

②Record (CMD-1=1X、CMD-2=02)

ビデオサーバーからの ACK (06) 応答で、コマンド受信とします。

③Stop (CMD-1=1X、CMD-2=00)

ビデオサーバーからの ACK (06) 応答で、コマンド受信とします。

④エラー

オートメーションからの問合せコマンド (CMD-1=3X、CMD-2=05 CODE=05) に対するビデオサーバーからのステータス応答が (CMD-1=3X、CMD-2=85) で無くなった場合にエラーとします。また、ステータス応答が 60 秒以上途絶えた場合もエラーとします。

通知内容とシーケンスは表 2.2.8.11-1～3「通知とシーケンス」を参照ください。

※通知するビデオ素材の VITC 値は、コマンド受信～読みとりまでのタイムラグのために、実 VITC 値と 1 秒前後の誤差が生じます。

表 2.2.8.11-1 通知内容とシーケンス

VDCP コマンド	登録素材	登録素材ディレイ main に入力		プレビュー出力 sub に入力		VAD-220 Trap 通知		
		画音	VITC	画音	VITC	Trap のトリガ	VDCP Trap 通知内容	Err Trap 通知内容
Rec Init	不定							
	1st カット							
Rec Start		不定	不定	BB	なし			
		1st カット	1st カットの VITC	1st カット	1st カットの VITC			
ビデオサーバーの ステータス確認	PLAY					Rec Start 受信後 映像の一致=調相完了	Compare 開始(recCompare=2) 素材 ID StarPosition TC main の VITC 値 sub の VITC 値 Rec 開始から Compare 開始までの経過時間 Δ T 秒 video タイミング 音声ステータス	エラー状態の変化に応じて すべての項目をリアルに通知
		PLAY	インクリメント	PLAY	インクリメント			
Rec Stop								
	不定	不定	不定	BB	なし	Rec Stop コマンドから Δ T 秒の経過	Compare 終了(recCompare=0) 素材 ID main の VITC 値 sub の VITC 値	

表 2.2.8.11-2 通知内容とシーケンス (Rec Start コマンド受信後、設定した許容時間を経過しても調相完了しないとき)

VDCP コマンド	登録素材	登録素材ディレイ main に入力		プレビュー出力 sub に入力		VAD-220 Trap 通知		
		画音	VITC	画音	VITC	Trap のトリガ	VDCP Trap 通知内容	Err Trap 通知内容
Rec Init	不定	不定	不定	BB	なし	Rec Start コマンド受信 から20秒経過	Compare エラー(recCompare=4) 素材 ID main の VITC 値 sub の VITC 値	
	1st カット							
Rec Start				1st カット	1st カットの VITC			
				?	?			
ビデオサーバーの ステータス確認	PLAY	PLAY	インクリメント	PLAY ?	インクリメント ?			
Rec Stop	不定	不定	不定	BB	なし			

表 2.2.8.11-3 通知内容とシーケンス (ビデオサーバーのステータスが異常の場合)

VDCP コマンド	登録素材	登録素材ディレイ main に入力		プレビュー出力 sub に入力		VAD-220 Trap 通知		
		画音	VITC	画音	VITC	Trap のトリガ	VDCP Trap 通知内容	Err Trap 通知内容
Rec Init	不定	不定	不定	BB	なし	Rec Start 受信後 映像の一致=調相完了	Compare 開始(recCompare=2) 素材 ID StarPosition TC main の VITC 値 sub の VITC 値 Rec 開始から Compare 開始までの経過時間 ΔT 秒 video タイミング 音声ステータス	エラー状態の変化に応じて すべての項目をリアルに通知
	1st カット							
Rec Start				1st カット	1st カットの VITC			
ビデオサーバーの ステータス確認	PLAY	PLAY	インクリメント	PLAY ?	インクリメント ?	Rec Stop コマンド受信前に ステータスが stop またはステータス確認 コマンドの途絶	Compare エラー(recCompare=4) 素材 ID main の VITC 値 sub の VITC 値	
Rec Stop	不定	不定	不定	BB	なし			

2.2.8.12 マスク値設定— 音声-1

※VAD-310は【SDI#1】のみの設定となります。

◇ マスク値設定

「0」で通知しない、「1～9999」で設定秒数のマスクが行われます。

マスク値

映像 音声-1 音声-2 字幕・エラー検知 字幕・状態通知 比較

「0」で通知しない、「1～9999」で設定秒数のマスクが行われます。

SDI#1

	1Ch	2Ch	3Ch	4Ch	5Ch	6Ch	7Ch	8Ch
無音	1	1	1	1	1	1	1	1
レベル低	1	1	1	1	1	1	1	1
レベル高	1	1	1	1	1	1	1	1
エンベデッド無	1	1	1	1	1	1	1	1
1kHz	1	1	1	1	1	1	1	1

☒ 通知する

SDI#2

	1Ch	2Ch	3Ch	4Ch	5Ch	6Ch	7Ch	8Ch
無音	1	1	1	1	1	1	1	1
レベル低	1	1	1	1	1	1	1	1
レベル高	1	1	1	1	1	1	1	1
エンベデッド無	1	1	1	1	1	1	1	1
1kHz	1	1	1	1	1	1	1	1

☒ 通知する

【SDI#1／#2】 1Ch～8Ch

エラー詳細	内容
無音	無音マスク時間（s） 指定された秒数の間、無音状態が連続した場合エラーを通知します。 ※無音のしきい値は 【2.2.7.6 しきい値設定—音声レベル ③SDI#1／SDI#2 音声無音 しきい値】にて設定します。
レベル低	レベル低マスク時間（s） 指定された秒数の間、音声レベル低エラーが連続した場合エラーを通知します。 ※音声レベル低のしきい値は 【2.2.7.6 しきい値設定—音声レベル ②SDI#1／SDI#2 音声レベル低 しきい値】にて設定します。
レベル高	レベル高マスク時間（s） 指定された秒数の間、音声レベル高エラーが連続した場合エラーを通知します。 ※音声レベル高のしきい値は 【2.2.7.6 しきい値設定—音声レベル ①SDI#1／SDI#2 音声レベル高 しきい値】にて設定します。

エンベデッド	エンベデッドオーディオ検出マスク時間 (s) 指定された秒数の間、音声が入ベデッドされていない状態が連続した場合エラーを通知します。
1kHz	1kHz 検出マスク時間 (s) 指定された秒数の間、1kHz 音声信号が継続した場合エラーを通知します。

2.2.8.13 マスク値設定— 音声-2

※VAD-310 は【SDI#1】 のみの設定となります。

◇ マスク値設定

「0」で通知しない、「1～9999」で設定秒数のマスクが行われます。

マスク値

映像 | 音声-1 | 音声-2 | 字幕・エラー検知 | 字幕・状態通知 | 比較

「0」で通知しない、「1～9999」で設定秒数のマスクが行われます。

SDI#1

	1ch/2ch	3ch/4ch	5ch/6ch	7ch/8ch
逆相	1	1	1	1

☒ 通知する

	第1音声	第2音声
ショートターム異常	1	1

☒ 通知する

SDI#2

	1ch/2ch	3ch/4ch	5ch/6ch	7ch/8ch
逆相	1	1	1	1

☒ 通知する

	第1音声	第2音声
ショートターム異常	1	1

☒ 通知する

【SDI#1／#2】 1ch／2ch 間、3ch／4ch 間、5ch／6ch 間、7ch／8ch 間

エラー詳細	内容
逆相	逆相マスク時間（s） 指定された秒数の間、逆相が連続した場合エラーを通知します。

【SDI#1／#2】 第 1／第 2 音声信号

エラー詳細	内容
ショートターム異常	音声信号ショートタームラウドネス異常検出マスク時間（s） 指定された秒数の間、ショートタームラウドネス異常が連続した場合エラーを通知します。 <通知項目> ①無音 ②レベル低 ③レベル高 ④エンベデッド無し

2.2.8.14 マスク値設定— 字幕・エラー検知

※VAD-310 は【SDI#1】 のみの設定となります。

◇ マスク値設定

「0」で通知しない、「1～9999」で設定秒数のマスクが行われます。

マスク値

映像 | 音声-1 | 音声-2 | 字幕・エラー検知 | 字幕・状態通知 | 比較

「0」で通知しない、「1～9999」で設定秒数のマスクが行われます。

SDI#1

	未更新	非表示	連続表示
HD字幕 第1言語	1	1	1
HD字幕 第2言語	1	1	1
SD字幕 第1言語	1	1	1
SD字幕 第2言語	1	1	1
携帯字幕 第1言語	1	1	1
携帯字幕 第2言語	1	1	1

☒ 通知する

SDI#2

	未更新	非表示	連続表示
HD字幕 第1言語	1	1	1
HD字幕 第2言語	1	1	1
SD字幕 第1言語	1	1	1
SD字幕 第2言語	1	1	1
携帯字幕 第1言語	1	1	1
携帯字幕 第2言語	1	1	1

☒ 通知する

【SDI#1／#2】 HD／SD／携帯 字幕 第1／2言語

エラー詳細	内容
未更新	字幕未更新マスク時間（s） 指定された秒数の間、字幕が更新されなかった場合にエラーを通知します。
非表示	字幕非表示マスク時間（s） 指定された秒数の間、字幕が表示されなかった場合にエラーを通知します。
連続表示	字幕連続表示マスク時間（s） 指定された秒数の間、字幕が更新されず、表示が連続した場合にエラーを通知します。

2.2.8.15 マスク値設定— 字幕・状態通知

※VAD-310 は【SDI#1】 のみの設定となります。

◇ マスク値設定

チェックを入れることで通知を行います。

マスク値

映像 | 音声-1 | 音声-2 | 字幕・エラー検知 | 字幕・状態通知 | 比較

チェックを入れることで通知を行います。

SDI#1

	パケット有無	表示有無	更新有無	連続性
HD字幕 第1言語	☒	☒	☒	☒
HD字幕 第2言語	☒	☒	☒	☒
SD字幕 第1言語	☒	☒	☒	☒
SD字幕 第2言語	☒	☒	☒	☒
携帯字幕 第1言語	☒	☒	☒	☒
携帯字幕 第2言語	☒	☒	☒	☒
アナログ字幕	☒			☒

☒ 通知する

SDI#2

	パケット有無	表示有無	更新有無	連続性
HD字幕 第1言語	☒	☒	☒	☒
HD字幕 第2言語	☒	☒	☒	☒
SD字幕 第1言語	☒	☒	☒	☒
SD字幕 第2言語	☒	☒	☒	☒
携帯字幕 第1言語	☒	☒	☒	☒
携帯字幕 第2言語	☒	☒	☒	☒
アナログ字幕	☒			☒

☒ 通知する

【SDI#1／#2】 HD／SD／携帯／アナログ 字幕 第1／2 言語

エラー詳細	内容
パケット有無	字幕パケットの有無を通知するか、しないかを設定します。
表示有無	字幕パケット内の表示位置コード（SDP）及び画面消去コード（CS）を受信した場合に通知するか、しないかを設定します。 ※アナログ字幕は設定できません。
更新有無	字幕パケット内の画面消去コード（CS）を受信した場合に通知するか、しないかを設定します。 ※アナログ字幕は設定できません。
連続性	字幕パケット内の連続性指標（CI）を受信した場合に通知するか、しないかを設定します。

2.2.8.16 マスク値設定— 比較

※VAD-200・220・240 のみの設定となります。

◇ マスク値設定

「0」で通知しない、「1～9999」で設定秒数のマスクが行われます。

「状態通知」「ディレイ値通知」はチェックを入れることで通知を行います。

マスク値

映像 | 音声-1 | 音声-2 | 字幕・エラー検知 | 字幕・状態通知 | 比較

「0」で通知しない、「1～9999」で設定秒数のマスクが行われます。
「状態通知」「ディレイ値通知」はチェックを入れることで通知を行います。

映像比較

	輝度比較	色差比較	DotByDot輝度比較	DotByDot色差比較
マスク値	1	1	1	28

☒ 通知する

	ディレイ測定値	不一致ブロック
状態通知	☒	☒

音声比較

	1Ch	2Ch	3Ch	4Ch	5Ch	6Ch	7Ch	8Ch
音声不一致	1	1	1	1	1	1	1	1
ディレイ値通知	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒

☒ 通知する

[映像比較] マスク値

エラー詳細	内容
輝度比較	輝度比較エラーマスク時間 (s) 指定された秒数の間、輝度比較エラーが連続した場合エラーを通知します。 ※通知する設定にすると、エラー継続中は輝度が変化する度に通知します。 ※輝度比較エラーのしきい値は 【2.2.7.2 しきい値設定—映像比較 ②輝度差】にて設定します。
色差比較	色差比較エラーマスク時間 (s) 指定された秒数の間、色差比較エラーが連続した場合エラーを通知します。 ※通知する設定にすると、エラー継続中は色差が変化する度に通知します。 ※色差比較エラーのしきい値は 【2.2.7.2 しきい値設定—映像比較 ④色差比較エラー】にて設定します。

DotbyDot 輝度比較	輝度（DotbyDot）比較エラーマスク時間（s） 指定された秒数の間、輝度（DotbyDot）比較エラーが連続した場合エラーを通知します。 ※輝度（DotbyDot）比較エラーのしきい値は 【2.2.7.2 しきい値設定－映像比較 ⑤エラー検知しきい値（DotbyDot）】にて設定します。 ※VAD-200 にはこの項目はありません
DotbyDot 色差比較	色差（DotbyDot）比較エラーマスク時間（s） 指定された秒数の間、色差（DotbyDot）比較エラーが連続した場合エラーを通知します。 ※色差（DotbyDot）比較エラーのしきい値は 【2.2.7.2 しきい値設定－映像比較 ⑤エラー検知しきい値（DotbyDot）】にて設定します。 ※VAD-200 にはこの項目はありません

〔映像比較〕 状態通知

エラー詳細	内容
ディレイ測定値	映像の遅延量測定結果を通知するか、しないかを設定します。 ※通知する設定にすると、遅延量が変化した場合にその値が通知されます。
不一致ブロック	映像比較エラーが発生した際、映像不一致ブロックの座標を通知するか、しないかを設定します。 ※映像比較エラーマスク時間を通知しない設定とした場合、不一致ブロック座標も通知されません。

〔音声比較〕 1Ch～8Ch

エラー詳細	内容
音声不一致	音声比較エラーマスク時間（s） 指定された秒数の間、音声比較エラーが連続した場合エラーを通知します。 ※音声比較エラーのしきい値は 【2.2.7.7 しきい値設定－音声比較】にて設定します。
ディレイ値通知	音声の遅延量測定結果を通知するか、しないかを設定します。 ※通知する設定にすると、遅延量が変化した場合にその値が通知されます。

2.2.8.17 サムネイル表示・自動動画作成設定

エラー項目にチェックを入れることでエラー発生時にサムネイル表示及び自動動画作成を行う項目の設定ができます。

表示サムネイル時刻設定

- ・チェックを入れるとサムネイルの表示時刻はエラー検知日時となります。
これは実際にエラーを検知した日時です。
- ・チェックを外すとサムネイルの表示時刻はログ日時となります。
これはエラー検知後にマスク設定秒経過し、エラーログが発生した日時です。

※SR-2000 は動画サイズが大きい為、自動動画作成は行いません。

2.2.9 VAD 接続設定

◇VAD-F2000 の IP アドレス・Snmp コミュニティ・同録ユニットの IP アドレス・チャンネル名称等を設定します。

VAD接続設定

No	本体IP	コミュニティ	同録IP	Ch名称	音声読み上げ用Ch名称	機種(自動判別)	ユニット番号	SR-2000 IP
1	10.9.15.169	public		CH1			1	
2		public		CH2			2	
3		public		CH3			3	
4		public		CH4			4	
5		public		CH5			1	
6		public		CH6			6	
7		public		CH7			1	
8		public		CH8			8	
9		public		CH9			9	
10		public		CH10			10	
11		public		CH11			11	
12		public		CH12			12	

再生 ⓘ OK キャンセル

(1)本画面の起動

メニューバーの「設定」→「接続管理」カテゴリ内→「VAD 接続設定」をクリックします。

(2)設定

①本体 IP

VAD-F2000 の IP アドレスを設定します。

②コミュニティ

VAD-F2000 のコミュニティを設定します。

③同録 IP

同録ユニットの IP アドレスを設定します。

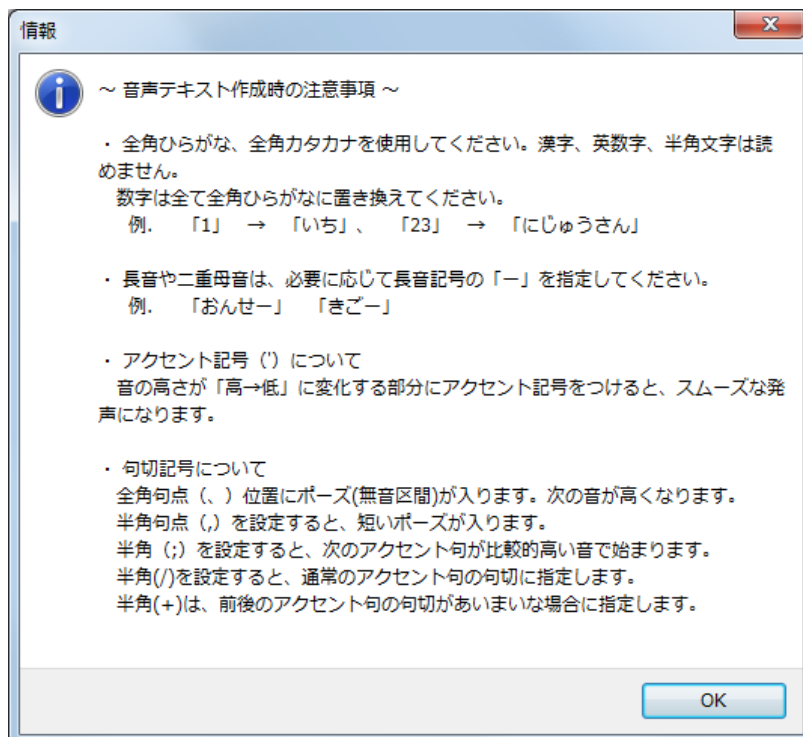
④Ch 名称

エラー確認ボタン・ログに表示されるチャンネル名称を設定します。

⑤音声読み上げ用 Ch 名称

エラー発生時に読み上げる音声メッセージを設定します。

- ・  をクリックすることで選択中の音声メッセージが再生されます。
- ・  をクリックすることで音声テキスト作成時の注意事項が表示されます。

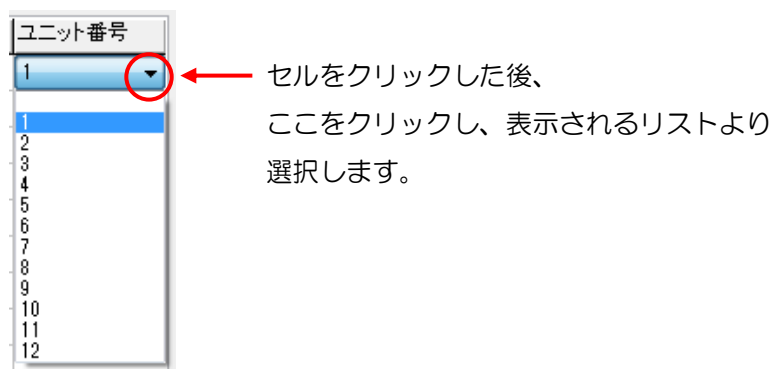


⑥機種

機種種別は監視システム内で自動判別を行うため、設定は不要です。

⑦ユニット番号

セルをクリックして、リストよりユニット番号を選択します。

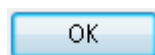


※一つの機種に同一のユニット番号は設定できません。

⑧SR-2000 IP

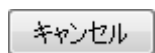
SR-2000 と接続する場合、SR-2000 の IP アドレスを設定します。

(3) 設定の保存と本画面の終了



ボタンをクリックすることで設定を保存し本画面を閉じます。

(4) 本画面の終了



ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックせずに「キャンセル」ボタンをクリックした場合は
変更した設定値は無効となります。

2.2.10 プレーヤー接続設定

◇プレーヤーの IP アドレス及びソケットポートの設定を行います。



(1)本画面の起動

メニューバーの「設定」→「接続管理」カテゴリー内→「プレーヤー接続設定」をクリックします。

(2)設定

①IP アドレス

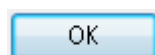
プレーヤーの IP アドレスを設定します。

②ソケットポート

プレーヤーのソケットポート番号を設定します。

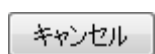
設定範囲は 1024～65535 です。

(3)設定の保存と本画面の終了



ボタンをクリックすることで設定を保存し本画面を閉じます。

(4)本画面の終了



ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックせずに「キャンセル」ボタンをクリックした場合は変更した設定値は無効となります。

2.2.11 端末接続設定

◇端末の接続設定及びサーバー実行ファイルの選択を設定します。

端末接続設定

接続設定

☒ サーバーまたはスタンドアローンとする
 ☐ クライアントとする

IPアドレス: 192.168.200.254

ポート番号: 10000

サーバーの(VADF2000.exe)の選択

画音監視サーバーの実行ファイルを選択します。

C:\Program Files\ALVIX\VAD-F2000\VADF2000.exe

※ 画音監視サーバーのインストールフォルダをクライアントからフルアクセスできるように共有してください。

接続クライアント設定

	IPアドレス
No1	192.168.200.205
No2	
No3	
No4	
No5	

OK キャンセル

クライアント接続[0]台

(1) 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「接続管理」カテゴリ内→「端末接続設定」をクリックします。

(2) 設定

① 接続設定

端末を、「サーバーまたはスタンドアローン」として使用するか、「クライアント」として使用するか選択します。

・IP アドレス（クライアントのみ）

サーバーの IP アドレスを設定します。

・ポート番号

ポート番号を設定します。設定値範囲は 1～65535 です。

② サーバーの (VADF2000.exe) の選択

画音監視サーバーの実行ファイルを選択します。

をクリックしてフォルダ参照画面より選択するか、直接パスを入力してください。

③接続クライアント設定（サーバーのみ）

- ・ IP アドレス

接続クライアントの IP アドレスを設定します。

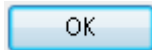
- ・ 動画保存フォルダ

クライアントで動画を保存する際の保存先フォルダをここで設定します。



をクリックしてフォルダ参照画面より選択するか、直接パスを入力してください。

(3)設定の保存と本画面の終了



ボタンをクリックすることで設定を保存し本画面を閉じます。

(4)本画面の終了



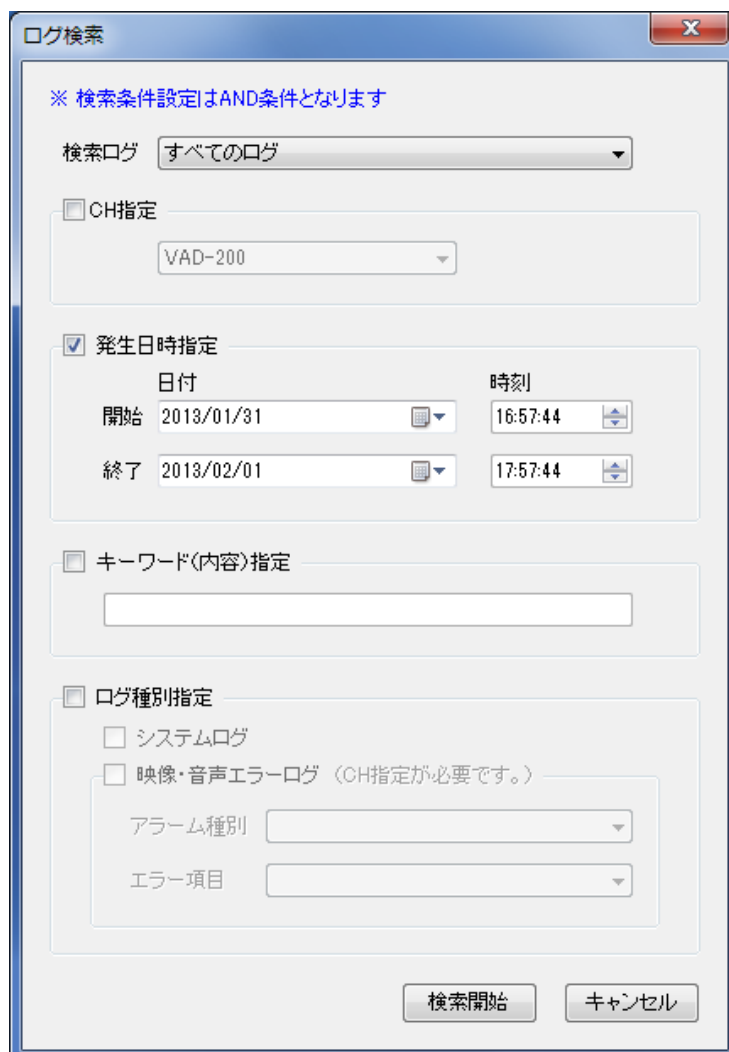
ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックせずに「キャンセル」ボタンをクリックした場合は変更した設定値は無効となります。

2.3 ログ操作・状況表示

2.3.1 ログ検索

◇条件を指定してログを検索します。



※ 検索条件設定はAND条件となります

検索ログ すべてのログ

☐ CH指定

VAD-200

☒ 発生日時指定

日付

開始 2013/01/31 時刻 16:57:44

終了 2013/02/01 17:57:44

☐ キーワード(内容)指定

☒ ログ種別指定

☐ システムログ

☐ 映像・音声エラーログ (CH指定が必要です。)

アラーム種別

エラー項目

検索開始 キャンセル

(1) 本画面の起動

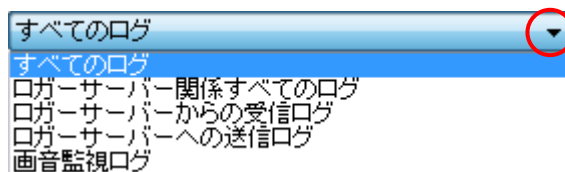
メニューバーの「ログ操作・状況表示」→「ログ操作」カテゴリ内→「ログ検索」をクリックします。

(2) 検索条件の設定

検索条件設定は AND 条件となります。

① 検索ログ

検索するログの種類を選択します。



ここをクリックし、
表示されるリストより
選択します。

② CH 指定

検索するチャンネルを指定します。

③ 発生日時指定

検索範囲の日時を FromTo 指定します。

④ キーワード内容指定

ログ（アラーム）をキーワード検索する時に指定します。

⑤ ログ種別指定

画音監視ログ内の特定のログを検索する時に選択します。

“検索ログ”でロガーサーバーに関するログを指定した場合はグレー表示となります。

・ システムログ

システムログのみを検索する際にチェックします。

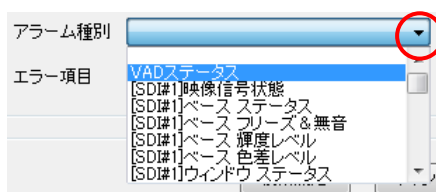
・ 映像・音声エラーログ

エラーログのみを検索する際にチェックします。CH 指定が必要となります。

また、アラーム種別やエラー項目を指定して検索することができます。

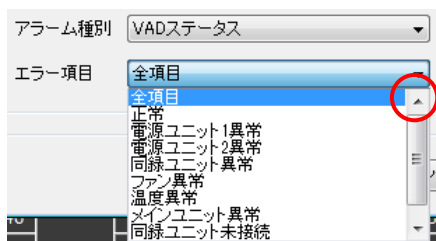
アラーム種別を指定すると、エラー項目が選択できるようになります。

アラーム種別の選択



ここをクリックし、表示されるリストより
選択します。

エラー項目の選択



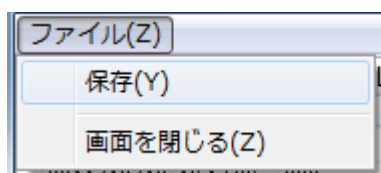
アラーム種別を選択することにより、
ここをクリックするとリストが表示され
ます。
検索したいエラー項目を選択します。

(3) 検索結果の表示と保存

検索開始 ボタンをクリックすることでログ検索画面が終了し、ログ検索結果画面が表示されます。

ログ日時	CH名称	内容	マスク(秒)	エラー検知日時	エラー継続時間	VITC
2016/03/08 10:01:10		画音監視システムを起動しました				
2016/03/08 10:01:11	CH1	VAD と切断しました				
2016/03/08 10:01:12		プレーヤーと切断しました				
2016/03/08 10:01:15	CH1	SR2000の時刻補正が失敗しました				
2016/03/08 10:01:58		しきい値・マスク値設定 変更				
2016/03/08 10:02:27		しきい値・マスク値設定 変更				
2016/03/08 10:03:04		画音監視システムを終了します				
2016/03/08 10:04:57		画音監視システムを起動しました				
2016/03/08 10:04:59	CH1	VAD と切断しました				
2016/03/08 10:05:02	CH1	SR2000の時刻補正が失敗しました				
2016/03/08 10:05:19		画音監視システムを終了します				
2016/03/10 11:52:08		画音監視システムを起動しました				
2016/03/10 11:52:09	CH1	VAD と切断しました				
2016/03/10 11:52:49		VAD 接続設定変更				

- ① 検索結果を csv ファイルに保存
ファイルメニューから表示します。



- ② 同録再生
エラーログをダブルクリックすると、同録再生を準備します。
※エラー検知日時が 24 時間を超えており、自動作成が行なわれていないログは動画を再生できません
- ③ ログ検索結果のソート
タイトルをクリックすると、クリックした項目＋日時の昇順でソートします。
- ④ ログ件数
左下に「選択中のログ No. / ログ総数 (最大 50,000 件)」が表示されます。

(4) ログ検索画面の終了

キャンセル ボタンをクリックします。

2.3.2 フラッシュエラーログ検索

◇フラッシュエラーログについて条件を指定してログを検索します。

フラッシュエラーログ検索

※ 検索条件設定はAND条件となります

CH指定

CH1

☐ 発生日時指定

日付 時刻

開始 2015/06/03 11:03:11

終了 2015/06/04 11:03:11

☐ キーワード(内容)指定

☐ 輝度フラッシュエラーA回数指定

1 回以上のログを抽出

☐ 輝度フラッシュエラーB回数指定

1 回以上のログを抽出

☐ 赤フラッシュエラー回数指定

1 回以上のログを抽出

検索開始 キャンセル

(1) 本画面の起動

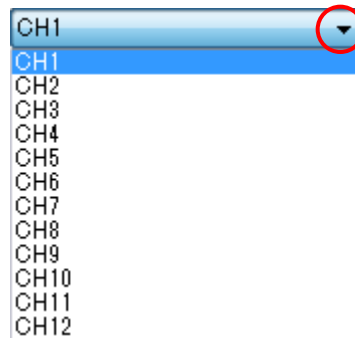
メニューバーの「ログ操作・状況表示」→「ログ操作」カテゴリー内→「フラッシュエラーログ検索」をクリックします。

(2) 検索条件の設定

検索条件設定は AND 条件となります。

① CH 指定

検索するチャンネルを選択します。



ここをクリックし、
表示されるリストより
選択します。

② 発生日時指定

検索範囲の日時を FromTo 指定します。

③ キーワード内容指定

ログ（アラーム）をキーワード検索する時に指定します。

④ 輝度フラッシュエラー A / B、赤フラッシュエラー 回数指定

それぞれ、輝度フラッシュ A / 輝度フラッシュ B / 赤フラッシュエラーの回数で
検索結果を絞り込む際に指定します。

(3) 検索結果の表示と保存

検索開始

ボタンをクリックすることでログ検索画面が終了し、ログ検索結果画面が表示されます。

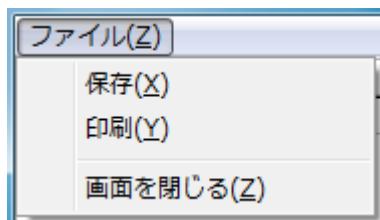
ログ検索結果-CH指定[CH1]

ファイル(Z)	ログ日時	CH名称	内容	エラー検知日時	エラー継続時間	VITC	グラフ
	2015/05/25 14:24:41	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-A[明滅回数:3] しきい値 レベル差:10% 検知面積:25%	2015/05/25 14:24:41		01:09:32:23	■■■
	2015/05/25 14:24:42	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-A 回復	2015/05/25 14:24:41	00:00:01	01:09:34:23	
	2015/05/25 14:24:45	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-A[明滅回数:3] しきい値 レベル差:10% 検知面積:25%	2015/05/25 14:24:45		01:09:36:20	■■■
	2015/05/25 14:24:46	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-A 回復	2015/05/25 14:24:45	00:00:01	01:09:38:23	
	2015/05/25 14:24:56	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-A[明滅回数:2] しきい値 レベル差:10% 検知面積:25%	2015/05/25 14:24:56		01:09:47:29	■■
	2015/05/25 14:24:58	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-A 回復	2015/05/25 14:24:56	00:00:02	01:09:50:23	
	2015/05/25 14:25:21	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-A[明滅回数:5] しきい値 レベル差:10% 検知面積:25%	2015/05/25 14:25:21		01:10:04:17	■■■■■
	2015/05/25 14:25:21	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-B[明滅回数:5] しきい値 レベル差:20% 検知面積:25%	2015/05/25 14:25:21		01:10:04:17	■■■■■
	2015/05/25 14:25:23	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-A 回復	2015/05/25 14:25:21	00:00:02	01:10:07:19	
	2015/05/25 14:25:23	CH1	[SDI#1]輝度フラッシュエラー-B 回復	2015/05/25 14:25:21	00:00:02	01:10:07:19	

10 / 10

① 検索結果を csv ファイルに保存

メニューバーの「ファイル」→「保存」をクリックし、保存先を指定します。

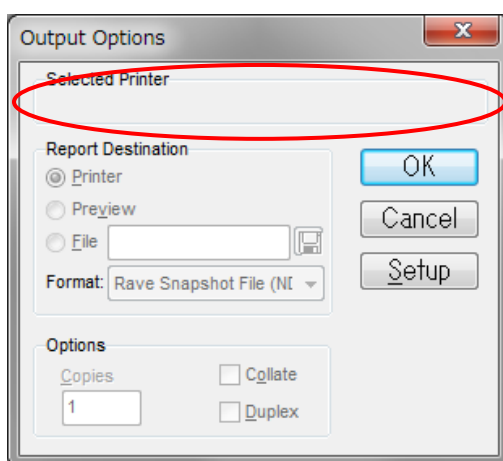


※ここで保存した csv ファイルは解析することが可能です。

詳細は 5.「フラッシュエラーログ保存後のレポート作成機能」を参照ください。

② 検索結果を印刷

メニューバーの「ファイル」→「印刷」をクリックします。



印刷するプリンター名が表示されます。

「OK」をクリックすると印刷されます。

「Setup」をクリックするとプリンターの設定ができます。

③同録再生

エラーログをダブルクリックすると、同録再生を準備します。

※エラー検知日時が 24 時間を超えており、自動作成が行なわれていないログは動画を再生できません

④ログ検索結果のソート

タイトルをクリックすると、クリックした項目+日時の昇順でソートします。

⑤ログ件数

左下に「選択中のログ No./ログ総数（最大 50,000 件）」が表示されます。

(4)ログ検索画面の終了



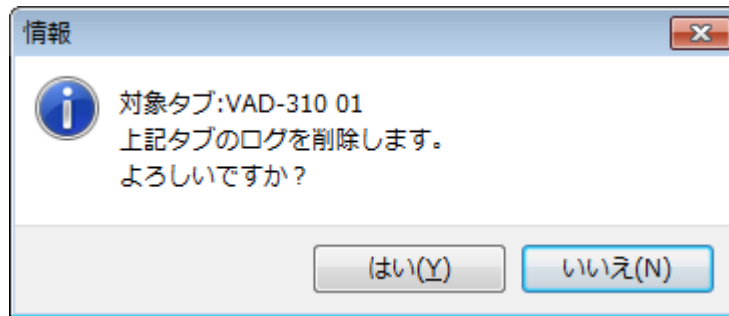
ボタンをクリックします。

2.3.3 ログ削除

- ◇ ログ表示エリアで選択中のタブ内ログデータを全て削除します。
- ◇ 本機能に画面は存在しません。

・ログの削除

メニューバーの「ログ操作・状況表示」→「ログ操作」カテゴリー内→「ログ削除」をクリックします。



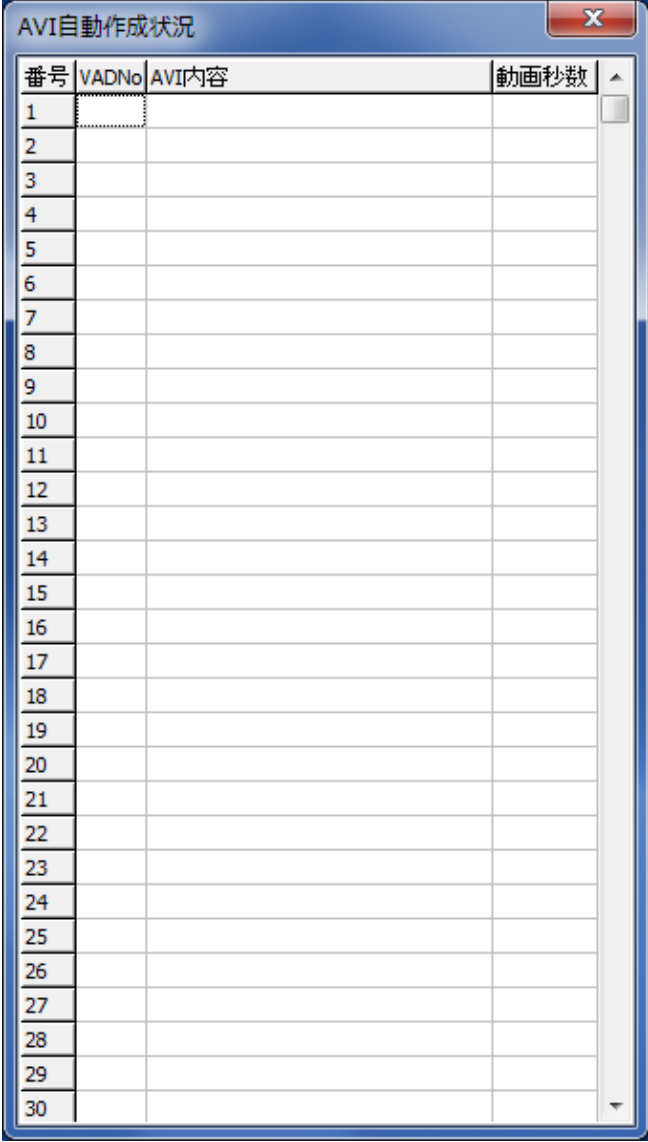
 ボタンをクリックすると、対象タブ内全てのログを削除します。

※ログの削除は、データベース上のデータを削除されるのみで、保存した CSV ファイルは削除しません。

2.3.4 AVI 自動作成状況

◇自動作成を行う AVI イベント一覧を表示します。

※2.2.12「端末接続設定」にて、「クライアントとする」を選択している場合は選択できません。



番号	VADNo	AVI内容	動画秒数
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

- ・メニューバーの「ログ操作・状況表示」→「AVI 作成状況」カテゴリー内
→「AVI 自動作成状況」をクリックすることで表示します。
- ・自動作成を行う AVI イベントの内容及び作成動画秒数が表示されます。

2.4 ハード情報参照

2.4.1 バージョン情報

◇ VAD-F2000 のバージョン情報を参照します。

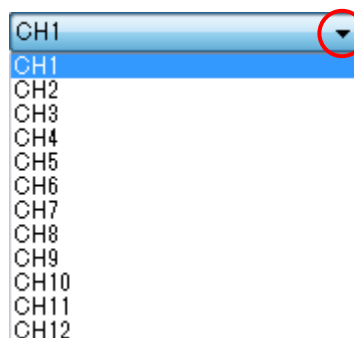


(1) 本画面の起動

メニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリ内
→「バージョン情報」をクリックします。

(2) VAD の選択

確認したいVAD を選択します。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3) バージョンの確認

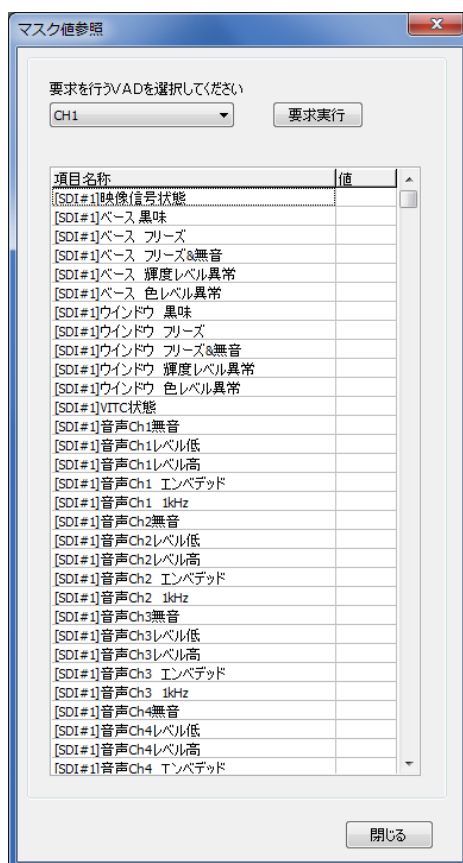
要求実行 ボタンをクリックします。

(4) 本画面の終了

閉じる ボタンをクリックします。

2.4.2 マスク値参照

◇ VAD-F2000 のマスク値を参照します。

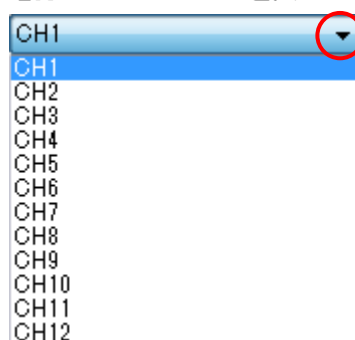


(1) 本画面の起動

メニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリー内
→「マスク値参照」をクリックします。

(2) VAD の選択

確認したい VAD を選択します。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3) VAD-F2000 のマスク値参照

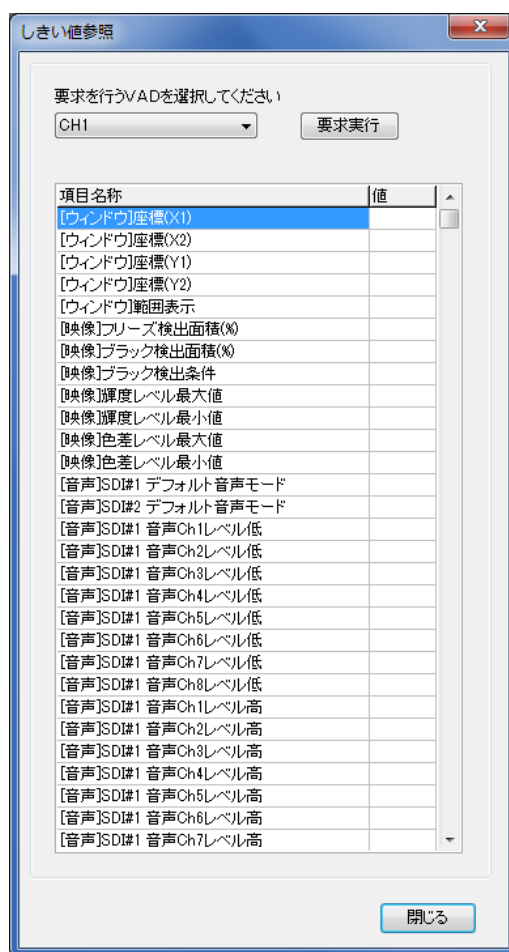
要求実行 ボタンをクリックします。

(4) 本画面の終了

閉じる ボタンをクリックします。

2.4.3 しきい値参照

◇ VAD-F2000 のしきい値を参照します。

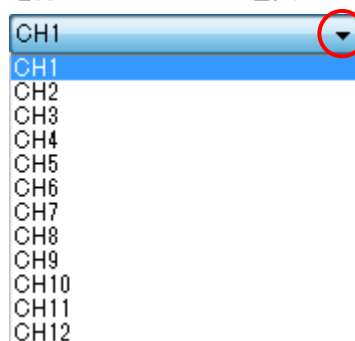


(1) 本画面の起動

メニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリ内
→「しきい値参照」をクリックします。

(2) VAD の選択

確認したい VAD を選択します。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3) VAD-F2000 のしきい値参照

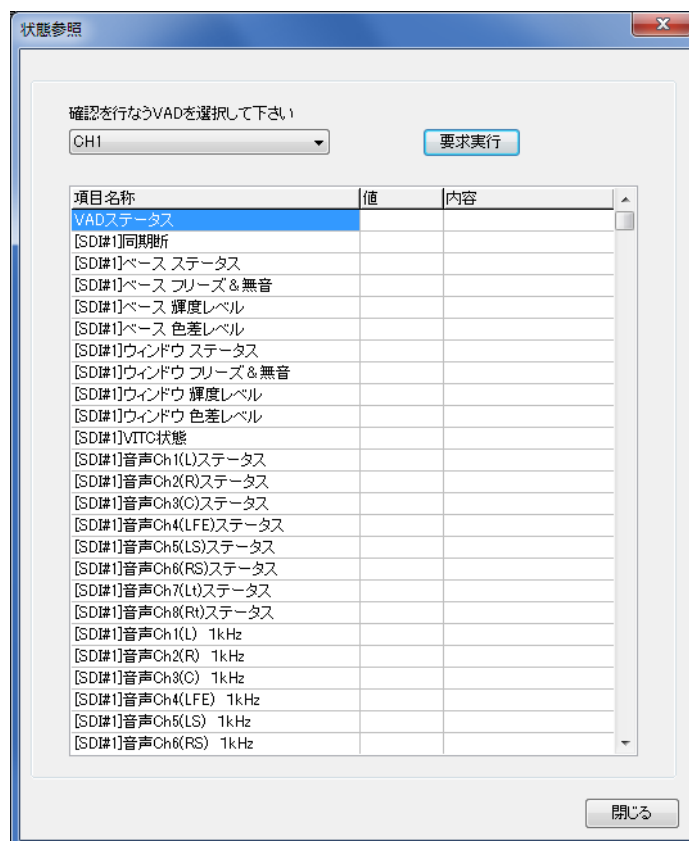
要求実行 ボタンをクリックします。

(4) 本画面の終了

閉じる ボタンをクリックします。

2.4.4 状態参照

◇ VAD-F2000 の状態を参照します。

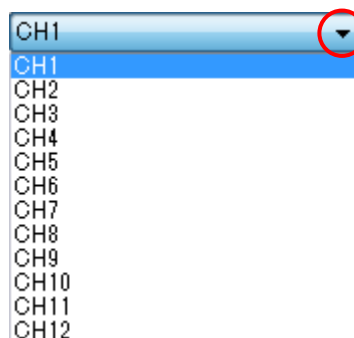


(1) 本画面の起動

メニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリー内
→「状態参照」をクリックします。

(2) VAD の選択

確認したい VAD を選択します。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3) VAD-F2000 の状態参照

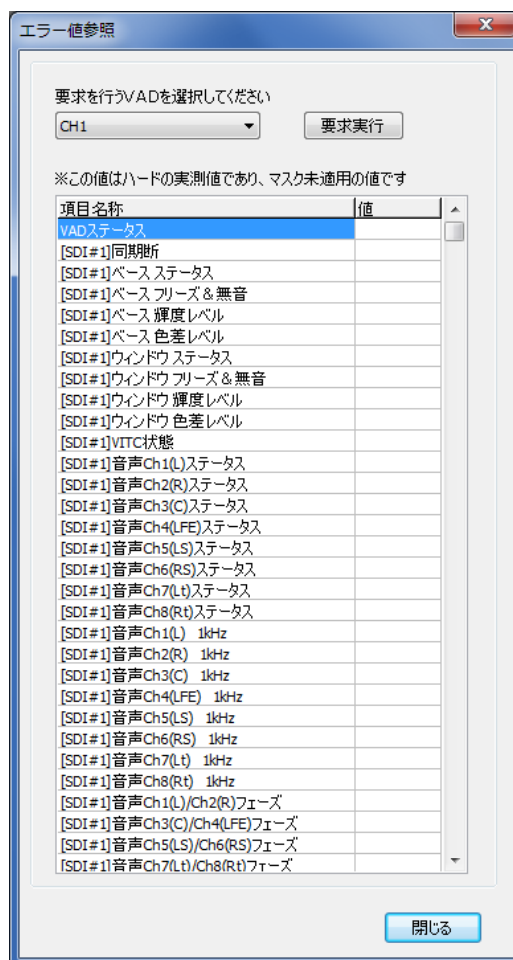
要求実行 ボタンをクリックします。

(4) 本画面の終了

閉じる ボタンをクリックします。

2.4.5 エラー値参照

◇ VAD-F2000 のエラー値を参照します。

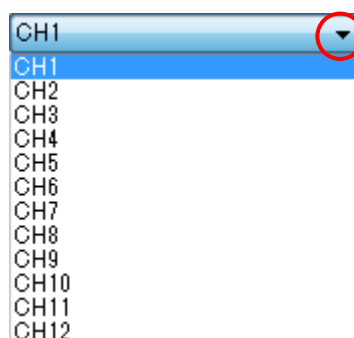


(1) 本画面の起動

メニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリ内
→「エラー値参照」をクリックします。

(2) VAD の選択

確認したい VAD を選択します。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3) VAD-F2000 のエラー値参照

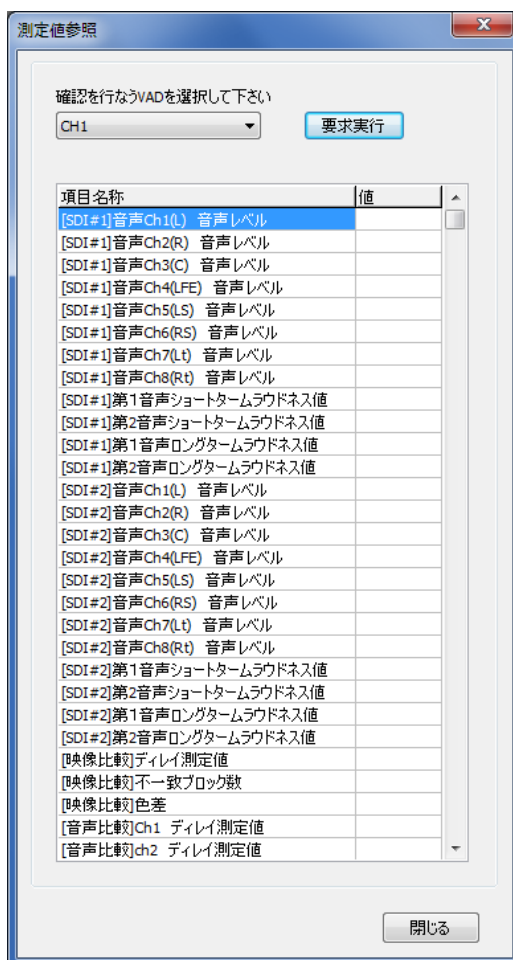
要求実行 ボタンをクリックします。

(4) 本画面の終了

閉じる ボタンをクリックします。

2.4.6 測定値参照

◇VAD-F2000 にて測定されている値を表示します。

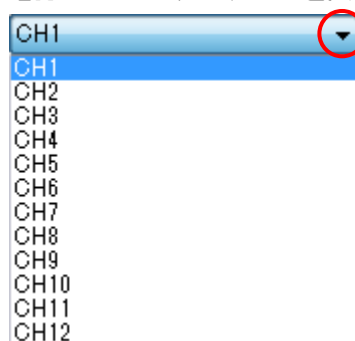


(1)本画面の起動

メニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリー内→「測定値参照」をクリックします。

(2)チャンネルの選択

確認したいチャンネルを選択します。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3)VAD-F2000 の測定値参照

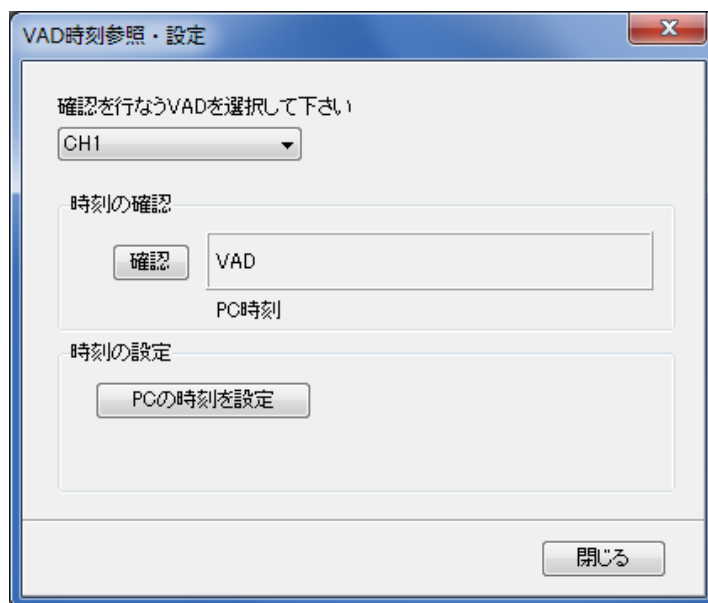
要求実行 ボタンをクリックします。

(4)本画面の終了

閉じる ボタンをクリックします。

2.4.7 VAD 時刻参照・設定

◇ VAD-F2000 の時刻参照と時刻設定を行います。

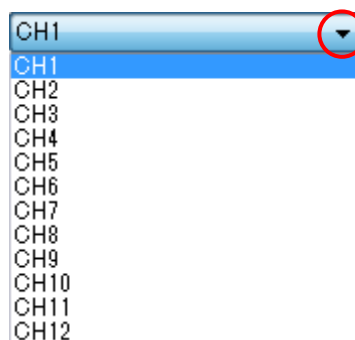


(1) 本画面の起動

メニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリー内
→「VAD 時刻参照・設定」をクリックします。

(2) チャンネルの選択

確認・設定したいチャンネルを選択します。

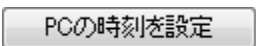


をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3) 時刻参照

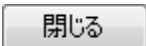
 ボタンをクリックします。

(4) 時刻の設定

 ボタンをクリックすると PC の現在時刻を VAD に設定できます。

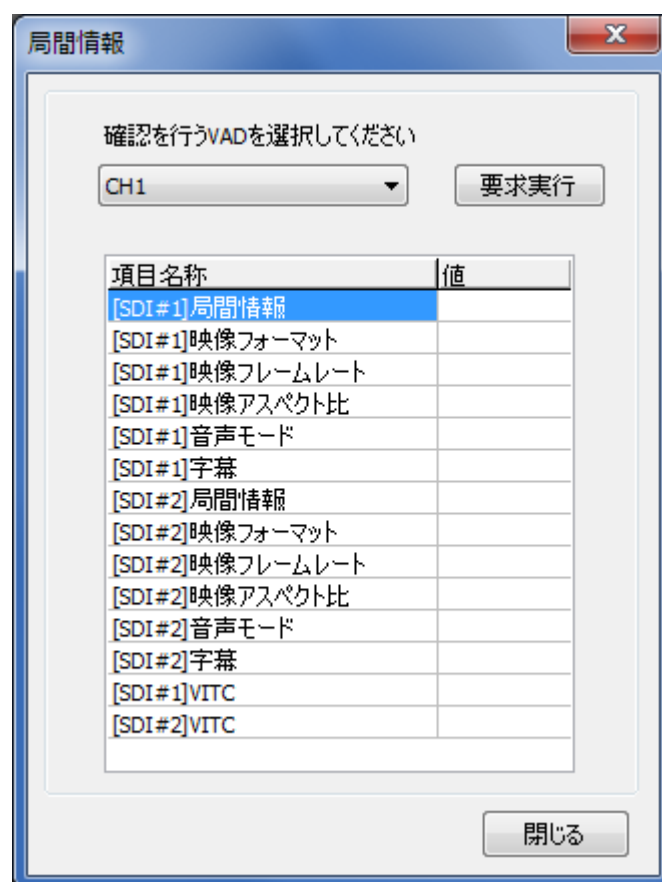
※2.2.12「端末接続設定」にて、「クライアントとする」を選択している場合は
ボタンがグレー表示となります。

(5) 本画面の終了

 ボタンをクリックします。

2.4.8 局間情報

◇ VAD-F2000 の局間情報を参照します。

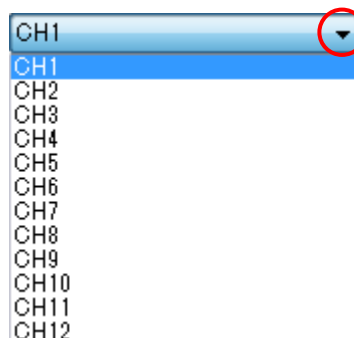


(1) 本画面の起動

メニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリ内
→「局間情報」をクリックします。

(2) VAD の選択

確認したい VAD を選択します。



をクリックし、表示されるリストより選択します。

(3) 局間情報の確認

要求実行 ボタンをクリックします。

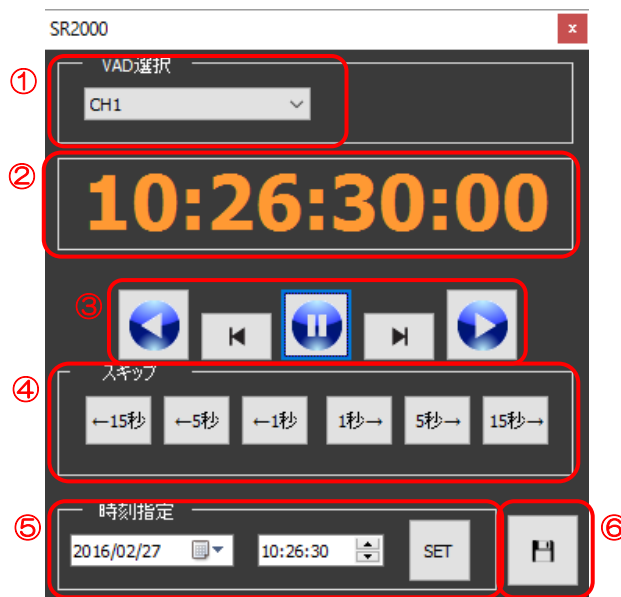
(4) 本画面の終了

閉じる ボタンをクリックします。

2.5 SR-2000

◇ SR-2000 での動画操作を行います。

本機能は SR-2000 と接続している場合のみ操作可能です。



(1) 本画面の起動

2.1.6「ログ表示」もしくは2.3.1「ログ検索」検索結果にて、エラーログをダブルクリックもしくはメニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリー内→「SR-2000」をクリックします。

(2) 画面説明

① VAD 選択

動画を表示する VAD を選択します。

ログをダブルクリックした場合は該当 VAD が自動選択されます。

② VITC 表示

キューアップされた VITC 時刻を表示します。

③ 動画再生リモコン

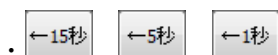
キューアップされた動画を操作するリモコンです。

ログのダブルクリック、もしくは⑤時刻指定を行うことで操作可能となります。

-  逆再生
逆再生を開始します。
-  戻る
1 フレーム戻ります。
-  一時停止
現在の再生位置で一時停止します。
-  進む
1 フレーム進みます。
-  再生
再生を開始します。

④ スキップ

ログのダブルクリック、もしくは⑤時刻指定を行うことで操作可能となります。



各秒数分 前の時刻でキューアップされます。



各秒数分 後の時刻でキューアップされます。

⑤ 時刻指定

日時を指定して動画を再生できます。

ログをダブルクリックした場合はエラー発生日時が自動設定されます。

「年/月/日 時/分/秒」を指定し、 ボタンをクリックするとキューアップされ、そこから再生することができます。

⑥ 保存ボタン

現在キューアップされている動画を保存します。



ボタンをクリックすると、下記画面が開きます。

・保存フォルダ



動画を保存するフォルダを選択します。



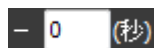
をクリックすると動画保存フォルダが表示されます。

・ファイル名

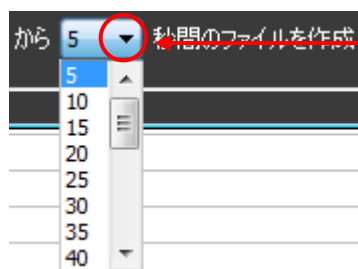
キューアップされている動画の開始日時「年_月_日_時_分_秒」がデフォルトで入っています。変更は可能です。

・保存時刻

キューアップされている動画の開始時刻を基準とし、何秒前から何秒間のファイルを作成するかを指定できます。



・・・作成ファイルの開始時刻を、基準となる時刻の何秒前からにするかを入力します。0～999（秒）まで指定できます。



をクリックし、開始時刻から何秒間のファイルを作成するかリストより選択します。
300 秒まで選択できます。



- ・ ボタンをクリックするとファイルが保存され、保存先フォルダが開きます。

※保存先はサーバー側 2.2.11「端末接続設定」で指定したフォルダになります。
クライアント側からは変更できません。

(3)操作例



本画面表示から動画切り出しまでの操作例です。

エラーログダブルクリックからの操作の場合は、a～c は自動で行われる為、d からの操作となります。

- メニューバーの「ハード情報参照」→「VAD 情報参照」カテゴリー内→「SR-2000」をクリック
- 「VAD 選択」より該当 VAD を選択
- 「時刻指定」より再生時刻を設定し、SET をクリック
動画再生リモコン、スキップボタンが操作可能となる
- 動画再生リモコン、スキップボタンにより、動画を確認
- 「保存ボタン」より動画保存設定を行う
- 「作成」をクリックすることで動画が切り出し保存される

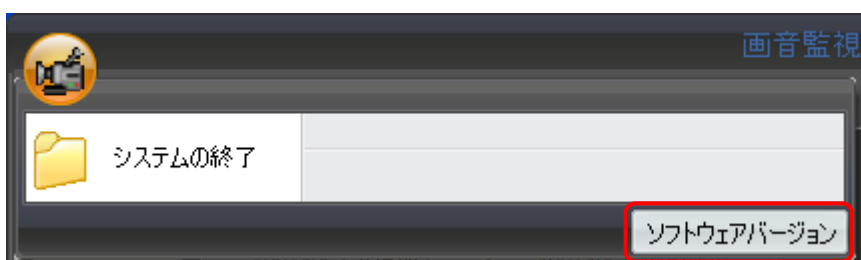
2.6 ソフトウェアバージョン情報

◇ 監視システムのバージョン情報を表示します。



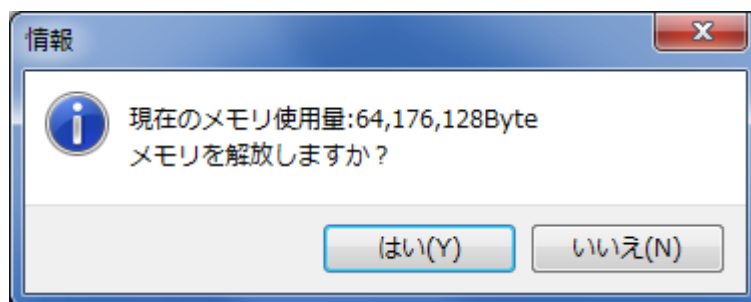
(1) 本画面の起動

スタートボタンより、「ソフトウェアバージョン」をクリックします。



(2) メモリ解放ボタン

メモリ解放 をクリックすると以下のダイアログが表示されます。



はい(Y) をクリックする事で監視システムのメモリが解放されます。

※監視システムはメモリ使用量が90MB 以上になった場合に自動でメモリを開放します。

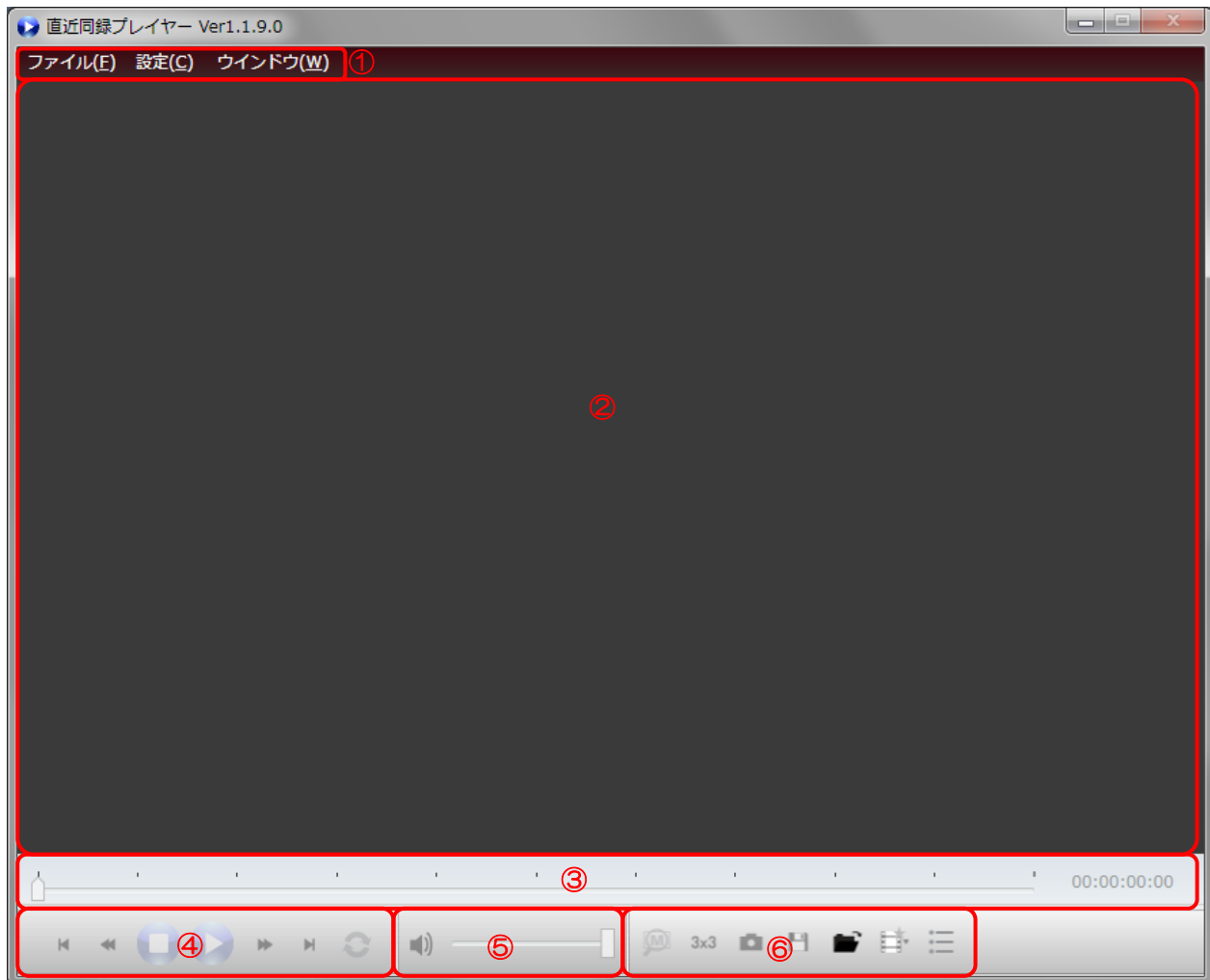
(2) 本画面の終了

本画面をクリックします。

3. プレーヤー

3.1 プレーヤー 画面

- ◇ 各画音エラーで作成された、再生ファイルを再生します。
- ◇ チャンネル、日時を指定して再生できます。



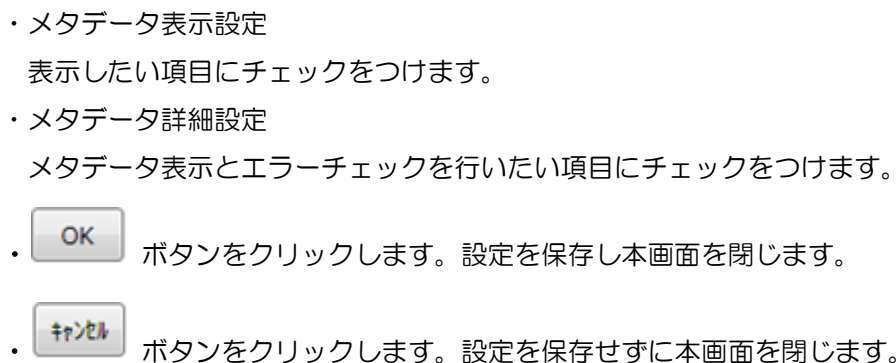
詳細については以下を参照してください。

- ① 3.1.1 メニューバー
- ② 3.1.2 ビデオ動画再生パネル
- ③ 3.1.3 シークバー
- ④ 3.1.4 動画再生リモコン
- ⑤ 3.1.5 音量調整パネル
- ⑥ 3.1.6 機能ボタンパネル

メニューバーの「ファイル」→「開く」をクリックします。

メニューバーの「ファイル」→「再生動画ファイル削除」をクリックします。

メニューバーの「設定」→「メタデータ表示設定」をクリックします。



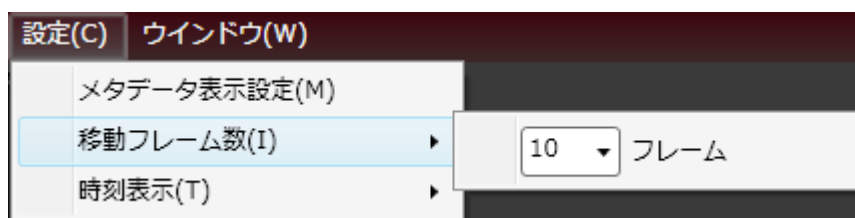
(4)移動フレーム数設定

メニューバーの「設定」をクリックし、「移動フレーム数」にカーソルを合わせます。

ここでは下記の移動フレーム数を設定できます。

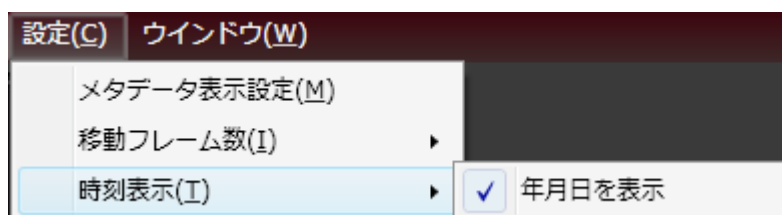
- ・再生中のマウスホイールによるコマ送り／コマ戻し
- ・再生中の画面クリックによるコマ送り／コマ戻し
- ・シークバーのクリックによるコマ送り／コマ戻し

移動フレーム数は 1～30 フレームまで選択できます。

**(5)時刻表示**

メニューバーの「設定」をクリックし、「時刻表示」にカーソルを合わせます。

「年月日を表示」をクリックすると 3.1.3「シークバー」の時刻表示に年月日を表示できます。

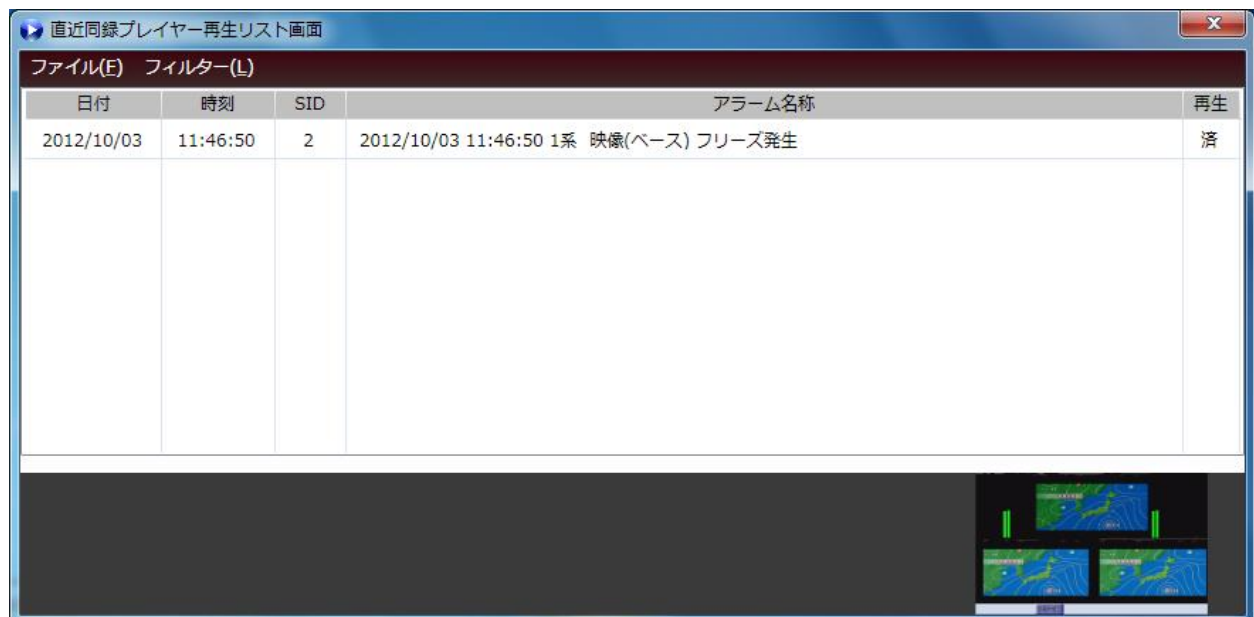


(6)再生リスト参照

メニューバーの「ウィンドウ」→「再生リスト参照」をクリックするか、もしくは機能ボタンパネルの  をクリックします。

プレーヤーで 24 時間以内に再生した一覧を、発生時刻順で表示します。

※キャプチャ画像は直近を 4 件まで表示します。



- ・同録再生
リストの再生ログもしくはキャプチャ画面をダブルクリックすると、プレーヤーに同録再生を準備します。
- ・フィルター
リストのメニューバーより、自動作成のみ表示と未再生のみ表示を指定できます。

3.1.2 ビデオ動画再生パネル

(1)エラーアイコン

メタデータ情報より、エラー（画像比較/色差比較/フリーズ/ブラック/フラッシュ A/フラッシュ B/フラッシュ赤）を表示します。



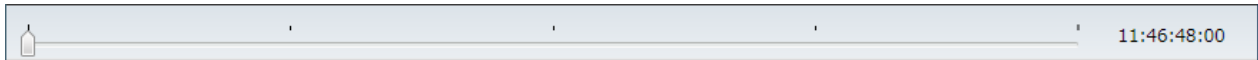
(2)ステータスウインドウ

- ・ ログ画面クリックによる再生時
ログ画面に表示されているログ内容を表示します。
例. 「2013/01/01 13:01:15 1 系 映像(ベース)フリーズ発生」
- ・ チャンネル、時刻指定により手動作成時
手動作成条件を表示します。
例. 「(手動作成) 2013/01/01 13:01:15 から 5 秒間 12 VAD-310 」
- ・ 保存した再生ファイル再生時
再生ファイル名を表示します。
例. 「(再生)自動_VAD-220_20130101130115 .avi 」

(3)コマ送りコマ戻し

ビデオ動画画面の右側をクリックすると、1フレーム進みます。
左側をクリックすると、1フレーム戻ります。

3.1.3 シークバー



(1)シークバー

動画の再生に連動して、スライダがシークします。スライダの操作により再生位置を変更できます。

シークバーをクリックすることで、再生位置を設定した移動フレーム数単位で移動できます。

(2)時刻表示

動画の時刻を HH:MM:SS:FF 書式にて表示します。

3.1.1「メニューバー」(5)“時刻表示”より年月日を表示できます。

3.1.4 動画再生リモコン



- ① 先頭フレームに移動
再生ファイルの先頭フレームに移動し停止します。
- ② 巻き戻し再生／スロー巻き戻し再生
・巻き戻し再生
再生中にクリックすると巻き戻し再生を行います。クリックする毎に巻戻し速度を 2 倍速→4 倍速→8 倍速と変更します。
現在の再生速度をボタン上に、RFW 2x→RFW 4x→RFW 8x と表示します。
・スロー巻き戻し再生
停止中にクリックすると 1 フレーム毎に、コマ戻し再生を行います。
クリックするたびにコマ戻し間隔を 0.5 秒→1.0 秒→2.0 秒と変更します。
現在のコマ戻し間隔をボタン上に、INT 0.5→INT 1.0→INT 2.0 と表示します。
- ③ 停止
再生を停止し、再生ファイルの先頭フレームに移動します。
- ④再生/一時停止
 再生を開始します。クリックすると一時停止ボタンに切り替わります。
 現在の再生位置で一時停止します。クリックすると再生ボタンに切り替わります。
- ⑤ 早送り再生／スロー再生
・早送り再生
再生中にクリックすると早送り再生を行います。クリックするたびに早送り速度を 2 倍速→4 倍速→8 倍速と変更します。
現在の再生速度をボタン上に、FF 2x→FF 4x→FF 8x と表示します。
・スロー再生
停止中にクリックすると 1 フレーム毎に、コマ送り再生を行います。
クリックするたびにコマ送り間隔を 0.5 秒→1.0 秒→2.0 秒と変更します。
現在のコマ送り間隔をボタン上に、INT 0.5→INT 1.0→INT 2.0 と表示します。
- ⑥ 最終フレームに移動
再生ファイルの最終フレームに移動し停止します。
- ⑦ リピート再生
 リピート再生が OFF の状態です。クリックするとリピート再生が ON になります。
 リピート再生が ON の状態です。クリックするとリピート再生が OFF になります。

3.1.5 音量調整パネル



(1) 音量トグルボタン

- ▶ 音声が出力されている状態を表します。ボタンをクリックすると音声をミュートします。
- ◀ 音声が出力されていない状態を表します。ボタンをクリックするとミュートを解除します。

(2) 音量スライダー

音声の音量を変更します。

3.1.6 機能ボタンパネル



①メタデータ表示／非表示ボタン

クリックすることによりメタデータの表示／非表示を切り替えます。

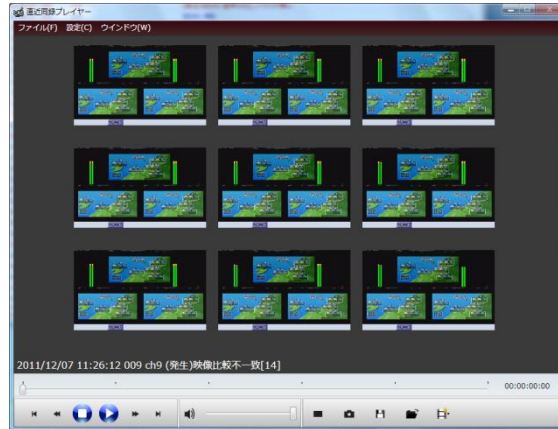
メタデータ非表示時は  、メタデータ表示時は  と表示されます。

直近同録プレイヤー メタデータ表示画面			
VAD時計	2014/ 3/13 09:15:24	LTC	--:--:--
TC SDI#1	00:00:00:00	TC SDI#2	00:00:00:00
Trap通知項目	VAD-200 通知内容		
	SDI#1	SDI#2	
映像状態	480i	480i	
ブラック	正常	正常	
フリーズ	正常	正常	
輝度レベル	正常	正常	
色差レベル	正常	正常	
ブラック(ウインドウ)	正常	正常	
フリーズ(ウインドウ)	正常	正常	
輝度レベル(ウインドウ)	正常	正常	
色差レベル(ウインドウ)	正常	正常	
字幕	VBI字幕	VBI字幕	
音声ch1/2逆相	正常	正常	
音声ch3/4逆相	正常	正常	
音声ch5/6逆相	正常	正常	
音声ch7/8逆相	正常	正常	
局間情報(状態)	無し	無し	
局間情報(アスペクト比)	—	—	
局間情報(音声モード)	無し	無し	
CH1音声レベル(dB)	-8 	-8 	
CH2音声レベル(dB)	-6 	-6 	
CH3音声レベル(dB)	-60	-60	
CH4音声レベル(dB)	-60	-60	
CH5音声レベル(dB)	-60	-60	
CH6音声レベル(dB)	-60	-60	
CH7音声レベル(dB)	-60	-60	
CH8音声レベル(dB)	-60	-60	
映像比較エラーブロック数	52 		
色差比較エラー(度)	4		
音声比較エラー1L不一致相関値	0		
音声比較エラー1R不一致相関値	0		
音声比較エラー2L不一致相関値	0		
音声比較エラー2R不一致相関値	0		
同録映像選択	SDI#1/SDI#2/合成/音声 分割出力		
同録音声ソース / 同録音声ch	SDI#1 / ch1/2		

②3×3 画面表示／全画面表示ボタン

・ 3×3 画面表示ボタン

 分割画面表示モードに切り替え、再生画面を 3x3 分割してビデオ動画再生パネルに表示します。クリックするとボタンが全画面表示ボタンに切り替わります。



・ 全画面表示ボタン

 全画面表示モードに切り替え、再生画面を全画面でビデオ動画再生パネルに表示します。クリックするとボタンが分割画面表示ボタンに切り替わります。

③スナップショットボタン

現在の同録画面上の再生状態を JPG 方式、BMP 方式、PNG 方式にて保存します。

④名前を付けて保存ボタン

表示されている再生ファイル(AVI ファイル)を指定フォルダに保存します。

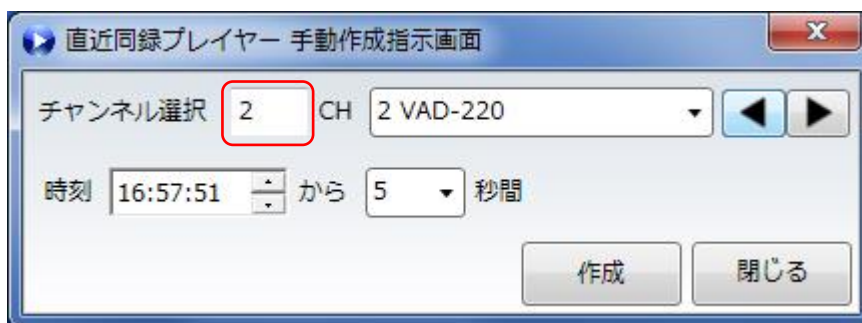
⑤開くボタン

保存した再生ファイル(AVI ファイル)を開きます。

⑥手動作成指示画面表示／非表示ボタン

クリックすることにより手動作成指示画面の表示／非表示を切り替えます。

画面非表示時は 、画面表示時は  と表示されます。



・ VAD 番号表示

上記画像の赤枠部分は VAD 番号を表示しています。

数字は手動で変更しないでください。

・ チャンネル選択

再生するチャンネルを選択します。

リストボックスより選択するか、  ボタンで選択します。

・ 再生時刻指定

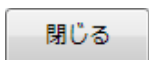
再生開始時刻と再生時間を指定します。

・ 再生ファイル作成ボタン／閉じるボタン



ボタンクリックで設定値に基づき再生ファイルを生成します。

※オンマウスでサムネイルが確認できます。



ボタンクリックで再生ファイル作成を取り消し、ウィンドウを閉じます。

⑦再生リスト表示／非表示ボタン

クリックすることにより再生リストの表示／非表示を切り替えます。

再生リスト非表示時は 、再生リスト表示時は  と表示されます。

再生リストについては 3.1.1 「メニューバー」(6) “再生リスト参照” を参照ください。

4. AVI 自動作成について

4.1 AVI 仕様

- ・ AVI サイズ

1 秒 : 約 3.9～4.7MB

60 秒 : 約 200～290MB

※素材内容によってサイズは変動します。

- ・ AVI ファイル名称

“ 自動_ ” + (VAD) + “ _ ” + (アラーム発生年月日時分秒).avi

4.2 AVI 自動作成イベント追加タイミング

エラー検知中に 2.2.9「サムネイル・動画自動作成設定」にて動画作成にチェックを入れたエラーを受信した際に AVI 自動作成イベントをイベントテーブルに追加し、古いものから順次 AVI を作成していきます。

※動画作成にチェックを入れた以外のエラーを残したい場合は、エラー発生時刻より 24 時間以内にエラーログをダブルクリックして AVI ファイルを手動で作成してください。

4.3 AVI 自動作成の流れ

①エラー発生します。

2012/01/20 17:28:42	映像比較 不一致発生 [不一致ブロック数:15]	0	2012/01/20 17:28:42
---------------------	--------------------------	---	---------------------

②AVI 自動作成イベントがイベントテーブルに追加されます。

20120120172842	11
----------------	----

③AVI 自動作成前に HDD 残容量が 2.2.4「キャプチャ設定」で設定した HDD 残容量設定値に達していないかチェックを行います。

- ・HDD 残容量設定値に達していた場合はエラー発生で作成した AVI ファイルを古い順から削除します。

HDD残容量が設定値に達した為、古い録画ファイルから削除を行ないます
録画ファイルを削除しました[自動20120120172731_1.avi]
録画ファイルを削除しました[自動20120120172731_2.avi]

- ・AVI ファイルの削除を行っても HDD 容量を確保できない場合は AVI 自動作成を停止します。

HDDの容量を確保できない為、AVI作成を停止しました

※AVI 自動作成を停止後に HDD 容量が確保されると AVI 作成を再開します。

AVI作成を再開します

④HDD 容量が確保されている場合は AVI ファイルが自動で作成されます。

⑤AVI ファイル作成後、保存 HDD の残容量が 2.2.4「キャプチャ設定」で設定した HDD 残容量設定値+HDD 残容量設定値の 10%に達した場合、注意喚起ログが表示されます。

HDD残容量が少なくなっています

5. フラッシュエラーログ保存後のレポート作成機能

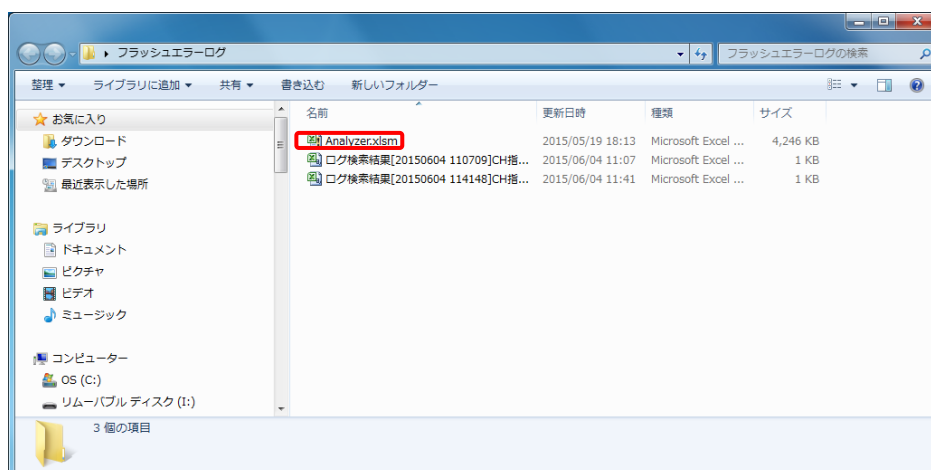
◇2.3.2「フラッシュエラーログ検索」にて保存した検索結果より、Excel ソフト上で解析結果を表示したり、ブラウザ上でエラー発生時の映像の確認ができます。

①ログ保存後のファイル取り扱い

ログファイルは保存先フォルダを指定する事が可能です。したがって、USB メモリ等に保存先を指定し、保存ファイルを外部に持ち出して解析する事が可能となります。
保存されたファイルは以下の通りとなります。

- ・ ログ CSV ファイル(検索結果保存ログ)
- ・ 再生用 AVI ファイル
- ・ 表示用サムネイル画像(表示単位毎にフォルダ分け)
- ・ 表示用 HTML ファイル
- ・ 解析用プログラム(Analyzer.xlsm)

②2.3.2「フラッシュエラーログ検索」にて検索結果を保存したフォルダーより、「Analyzer.xlsm」を開きます。

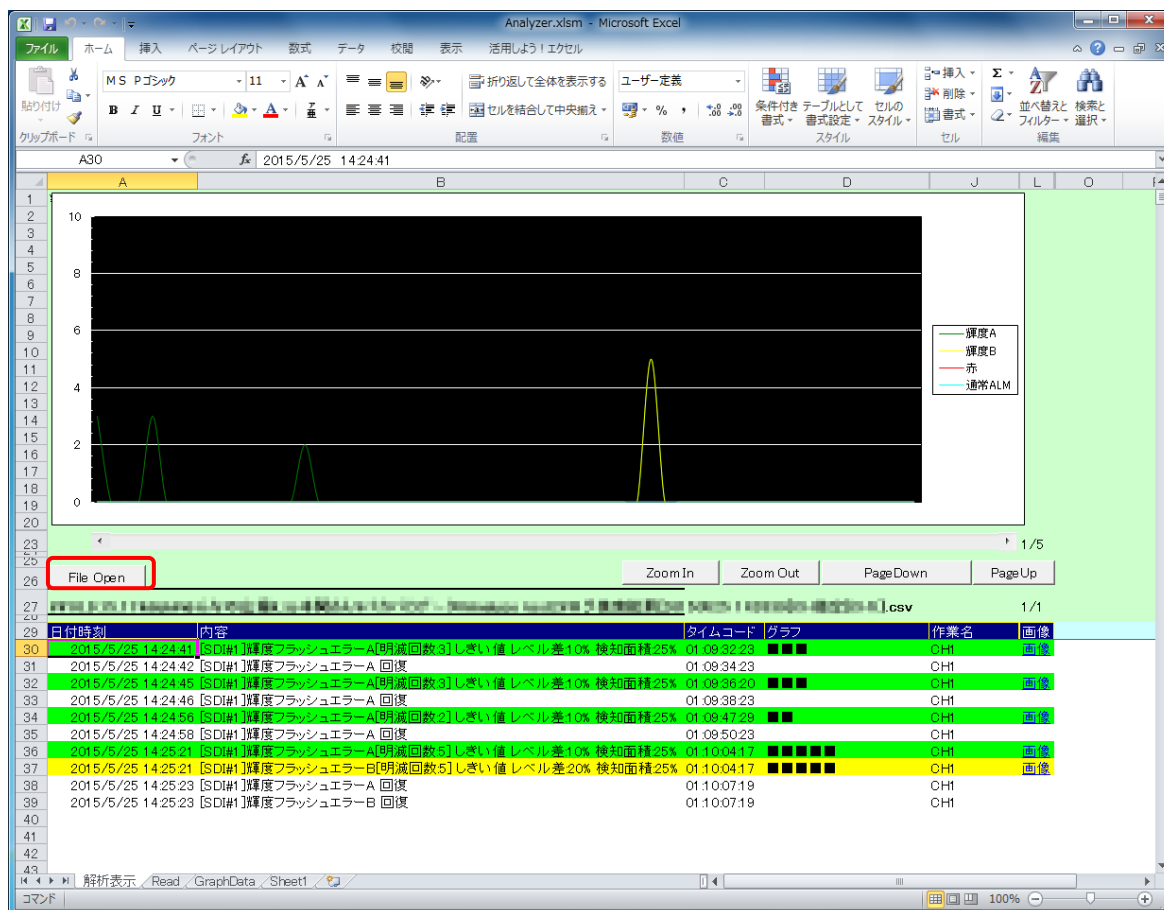


③csv ファイルの解析結果を確認できます。

「File Open」 ボタンより、解析したい csv ファイルを開きます。

※Excel ソフトのセキュリティ設定により、表示が正しく行われなかった場合があります。

その場合は「セキュリティの警告」項目の「オプション」をクリックし、
マクロ及びデータ接続の「このコンテンツを有効にする」にチェックを入れ、
「OK」 ボタンをクリックしてください



- ③「画像」リンクをクリックするとhtmlが開き、ビデオキャプチャ再生動画と1フレーム毎のサムネイル画像が確認できます。

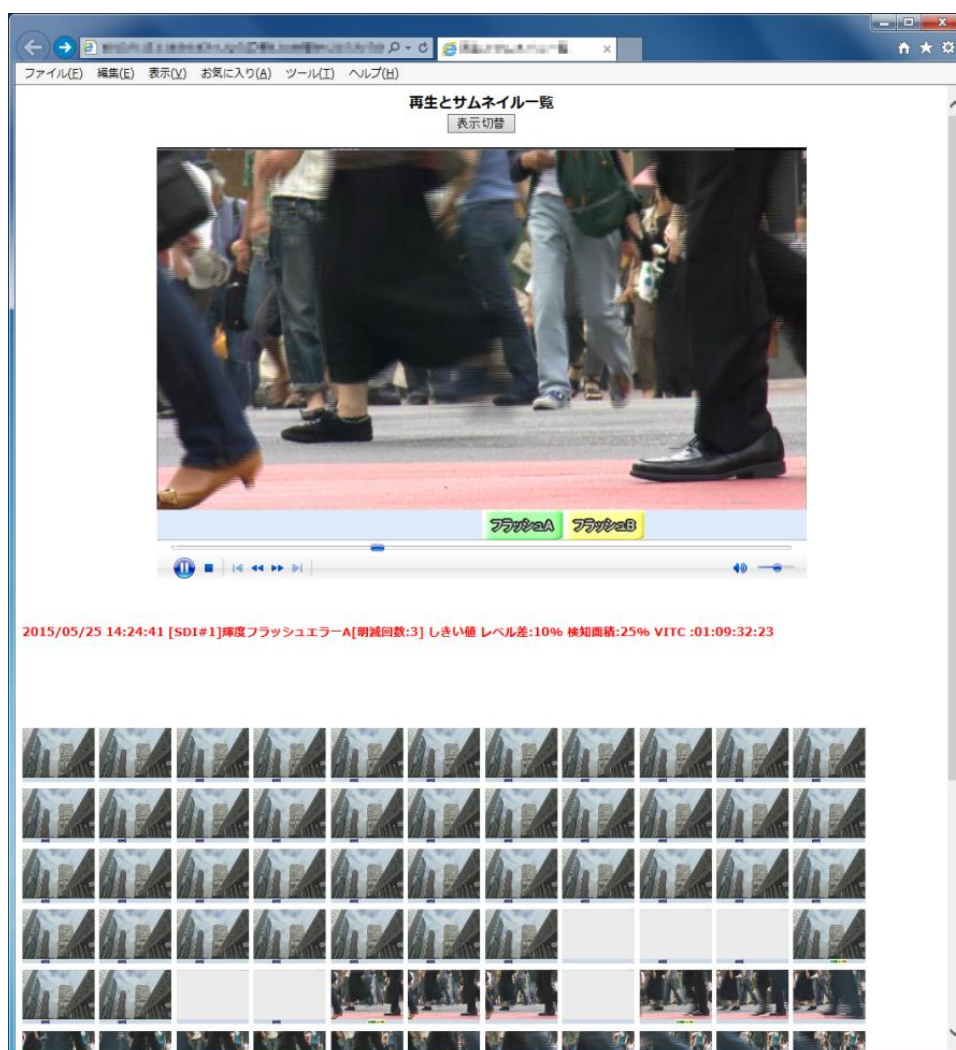
※「Internet Explorer」のみ対応となります。

「Internet Explorer」のセキュリティ設定により、動画が読み込まれない場合があります。その場合は「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックする事で動画が読み込まれ、再生する事が出来ます。

※ここで動画とサムネイルを確認するには、2.2.9「サムネイル・動画自動作成設定」で

- ・[SDI#1/SDI#2]輝度フラッシュエラーA
- ・[SDI#1/SDI#2]輝度フラッシュエラーB
- ・[SDI#1/SDI#2]赤フラッシュエラー

に「サムネイル」「動画作成」どちらもチェックを付ける必要があります。



※「表示切替」ボタンをクリックすることで、再生画面の表示／非表示を切り替えられます。

④サムネイル画像をクリックすると、画像を拡大表示できます。



お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についてのアフターサービスは、お買い上げの販売店におたずねください。
なお、販売店が不明の場合は弊社へお手数でもご連絡ください。

故障・保守サービスのお問い合わせは

販売店：

TEL
担当

製品の操作方法に関するお問い合わせは

無断転載禁止

アルビクス株式会社

〒959-0214

新潟県燕市吉田法花堂1974-1

TEL：0256-93-5035

FAX：0256-93-5038